



2021 年度福島県事業
大学生の力を活用した集落復興支援事業
報告書

前橋工科大学 都市地域計画研究室

目次

1. はじめに	4
2. 対象地の概要	7
2-1 地勢	
2-2 気候	
2-3 二本松市の歴史	
2-4 震災の影響	
2-5 産業	
2-6 二本松市における人口の状況	
3. 地域の暮らし	13
3-1 生活環境について	
A. 日常生活	
1) 仕事について	
2) 生活施設について	
3) 子育て環境	
4) 医療施設	
5) 移動	
B. 地域の活動	
1) 行事・お祭り	
2) 地域自治	
3-2 魅力について	
A. 自然	
B. 里山の風景	
C. 伝統文化, 行事	
D. 産業など	
E. 地域の方が好きな (おすすめの) 場所と風景,	
F. 昔からの風景が残る場所	
G. 特徴的な建物や町並み,	
H. 集落・地区の活性化に向けた活動や場所	
3-3 中学生へのアンケート結果	
3-4 学生から見た竹ノ内集落 (東和地域)	

4. 活性化を検討するための要素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
4-1 これまでの取組	
A. 移住促進・流出（転出）軽減対策	
B. 広域での資源	
C. 仕事・雇用	
D. 関係人口づくり	
4-2 活性化に活用可能な資源	
A. 空き家	
B. 竹	
C. ワイナリー	
5. 地域の活性化提案に向けた基礎的検討・・・・・・・・・・・・・・・・	36
5-1 空き家・廃校の利用	
5-2 田畑の利用	
5-3 竹の活用	
5-4 自然の中での滞在	
5-5 四季の魅力を生かした観光促進	
5-6 その他のアイデア	
5-7 活性化の方向性・今後の方針	

付録

- ①オンラインヒアリングの記録
- ②現地調査の記録
- ③空き家活用事例
- ④中学生へのアンケート調査の結果（地域で本プロジェクト前に実施されたもの）

参加者

4年生：金キナ，小山未菜美，齋藤莉奈，杉崎実来，杉本礼良
3年生：鈴木海陸，坂野怜太，谷口想人，前田大輝，吉田恭央
教員：辛島一樹

1. はじめに

背景

福島県では、高齢化や地域の担い手不足などにより、地域住民だけでは集落の維持・再生が困難になることが心配される地域がある。そのため、大学生の持つ新しい視点や行動力、専門技術や知識など『外からの力』を活用し、地域の復興・活性化を図ながら、集落の応援団（サポーター）を育成していくことを目的とし、令和2年度まで「大学生等による地域創生推進事業」を実施していた。令和3年度からは、事業を新たに組み直し、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」を実施している¹⁾。その事業の一つとして、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」があり、その事業の採択・委託を受けて、本プロジェクトは実施に至っている。

対象地域は、二本松市の竹ノ内集落である。現在の日本は、全国的に少子高齢化等の影響により人口減少が進行している状況である。竹ノ内集落も同様に少子高齢化が深刻な問題となっている地区の一つである(図1)。

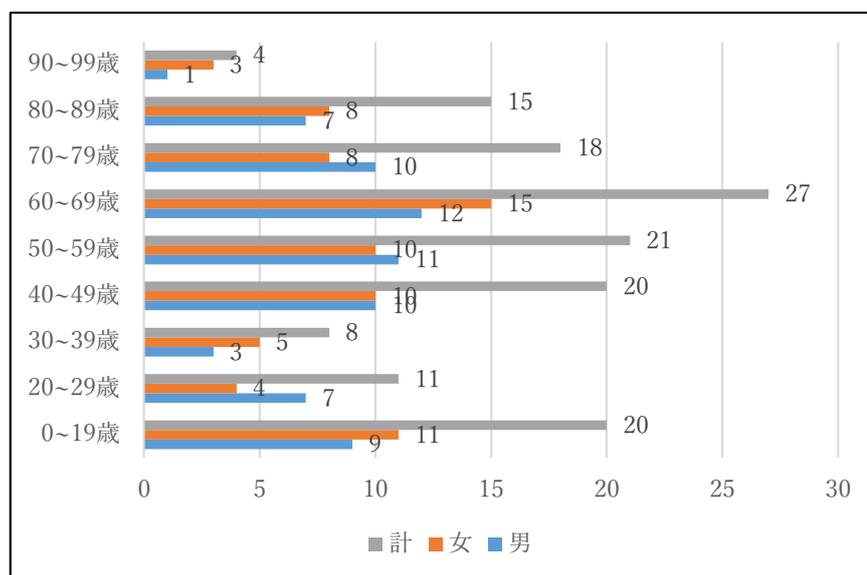


図1 竹ノ内集落の年齢別人口（令和3年）

表1より、集落内の人口の約45%は60歳以上である。また、約70%は40歳以上であり、若い世代の割合が小さいことが分かる。若者の転出が多いためである。

表 1 竹ノ内集落の年齢別人口の割合

	男	女	計
0~19歳	12.9%	14.9%	13.9%
20~29歳	10.0%	5.4%	7.6%
30~39歳	4.3%	6.8%	5.6%
40~49歳	14.3%	13.5%	13.9%
50~59歳	15.7%	13.5%	14.6%
60~69歳	17.1%	20.3%	18.8%
70~79歳	14.3%	10.8%	12.5%
80~89歳	10.0%	10.8%	10.4%
90~99歳	1.4%	4.1%	2.8%
計	100%	100%	100.0%

そして集落の総人口も、人口も平成 22 年の 185 名から令和 3 年には 144 名になり、集落の人口減少も進行している(図 2)。

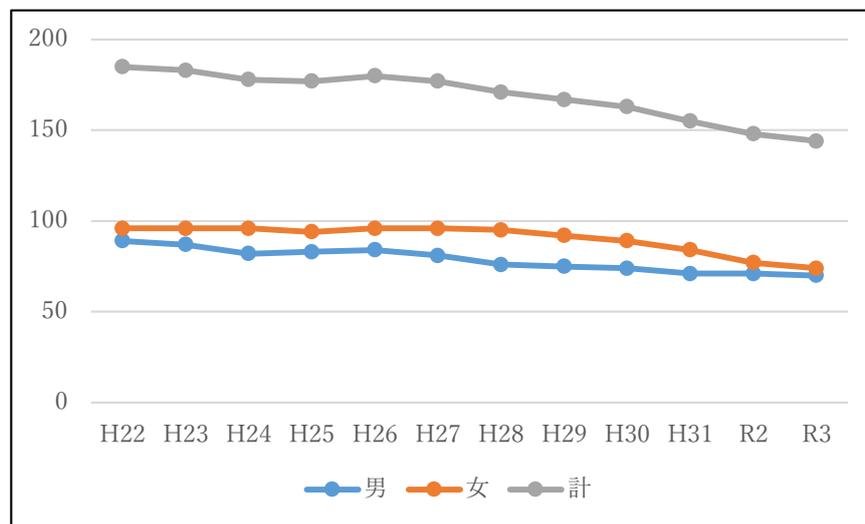


図 2 竹ノ内集落の人口推移

このような背景から、高齢化や地域の担い手不足により、集落の維持・再生が困難であることが考えられる²⁾。

目的

今年度の本プロジェクトでは、集落の現状を把握し、活性化に繋げていく提案を考えることを目的とする。

方法

はじめに、対象地域の位置や歴史、人口などの基本的情報を整理する(2章)。基本的情報を理解したうえで、地域のくらしを理解するため、文献調査やヒアリング調査、現地調査を通して、生活環境や地域の魅力を整理する(3章)。併せて、活性化の計画を検討するための要素を把握するため、3章同様に文献調査やヒアリング調査、現地調査を通して、これまで地域で実施されてきた活性化に関する取り組みと、活性化に活用可能な資源を整理する(4章)。その後、地域の活性化提案に向けた基礎的検討を行うため、4章までの成果を踏まえて幅広く事例を収集し、具体的な事業の検討、実施のための知見を得る(5章)。

参考文献

- 1) 福島県ホームページ アクセス日：2022/1/20
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025b/tiikishinkou-56.html>
- 2) 竹ノ内地区人口データ

2. 対象地の概要

2-1 地勢

二本松市は西に標高 1,700m の安達太良連邦、東に阿武隈山系を望み、その中央に阿武隈川が流れ、東西に約 35km、南北に約 17km と横長の地形となっている。その中の東和地域は阿武隈系地域の北部に位置し、移川、小浜川、口太川が流れている。中央部は平坦地で標高 200m～300m の比較的温暖的な地域である。⁽¹⁾

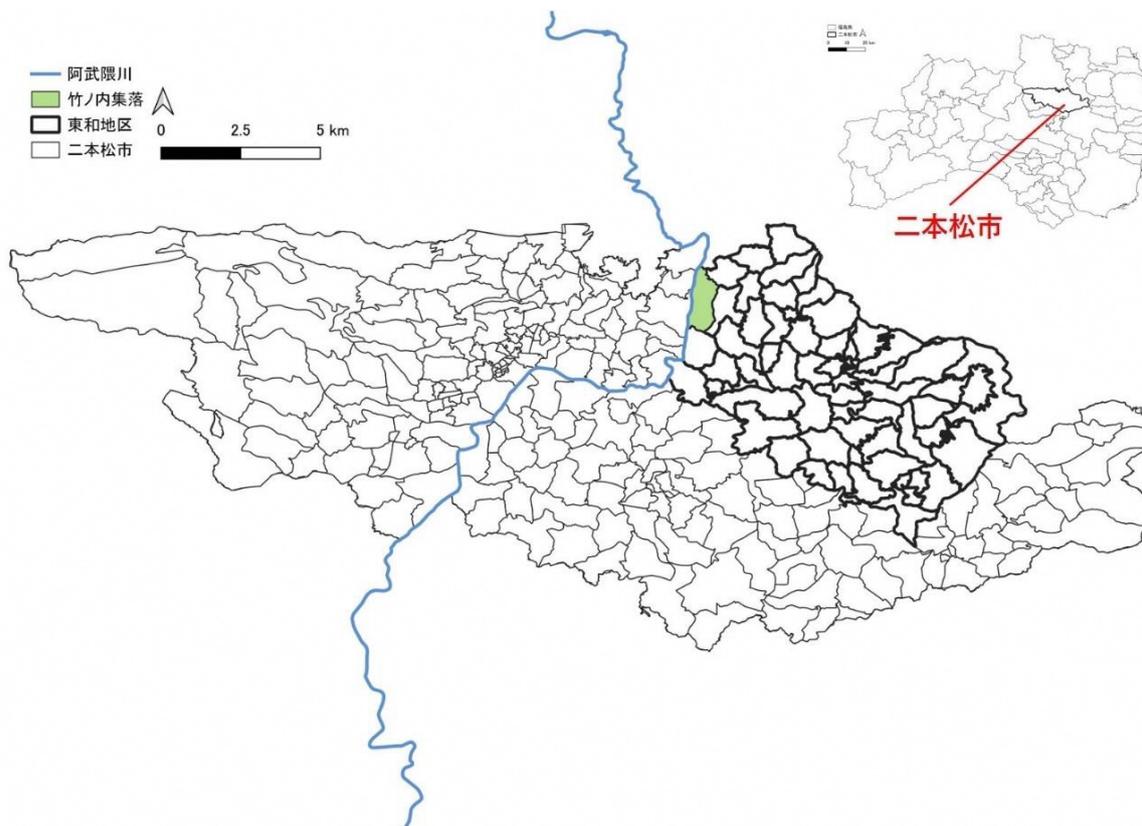


図 2-1 対象地の位置

国土数値情報より作成

2-2 気候

二本松市は、年間平均気温 11.0℃前後、最低気温 -4℃前後、最高気温 30℃前後、年間降水量は 1,100 mm 程度で、積雪は市街地が多い時に 20 cm 前後の降雪がある。⁽²⁾

春先にかけて、風が強く吹く日もあるが、台風等による風雨の被害も比較的少なく、全体として穏やかな気候である。⁽¹⁾

表 2-1 二本松市の気温と降水量（文献⁽²⁾より抜粋）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温(°C)	5.1	5.9	9.7	16.6	21.6	24.5	27.6	29.5	24.7	19.1	13.4	8.1	17.2
平均気温(°C)	0.5	1.0	4.1	10.4	15.5	19.1	22.6	24.2	19.8	13.7	8.0	3.3	11.9
最低気温(°C)	-3.8	-3.5	-0.9	4.4	9.9	14.6	18.9	20.3	15.8	9.0	3.0	-1.2	7.2
降水量(mm)	38.2	36.7	74.5	90.1	100.2	129.0	174.6	154.9	176.6	119.9	64.0	33.8	1212.9

2-3 二本松市の歴史

古くは縄文時代から人が住みはじめ、中世では相場街道の宿場町として栄えた。相場街道は、相場藩と二本松藩が江戸時代の前半に開いた道で、阿武隈高地を斜めに横断し、両藩を結んだ道である。現在の相馬市松川浦でとれた塩や魚がこの道を通って中通りに運ばれており、沿線住民には「塩の道」として親しまれていた。江戸時代には奥州二本松藩十万七千石の城下町として栄え、物資の交流や文化の往来の役割を果たしていた。⁽³⁾

近世以降、旧東和町は、明治前期には、針道村・内木幡村・外木幡村・上太田村・下太田村・北戸沢村・南戸沢村の7つの村にあたる地域だった。明治22年4月の町村制施行により、内木幡村・外木幡村の2村が合併して木幡村に、上太田村・下太田村の2村が合併して太田村に、北戸沢村・南戸沢村の2村が合併して戸沢村となった。そして、昭和30年1月に針道村・木幡村・太田村・戸沢村の4村が合併して東和村が誕生した。その後、昭和35年4月に町村制施行により東和町となり、平成17年12月1日に二本松市・安達町・岩代町・東和町の4市町が合併して新「二本松市」が誕生した。⁽⁴⁾

2-4 震災の影響

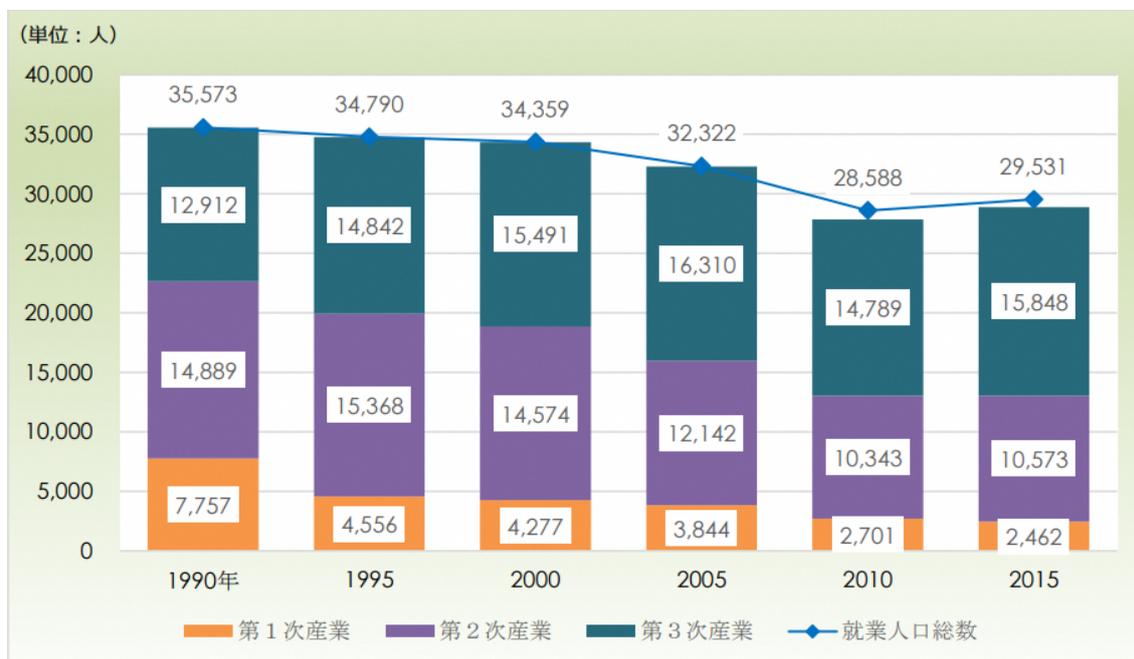
東和地域は平成23年3月11日の東日本大震災において、田畑や家屋の被害はほとんどなかったものの、福島第一原子力発電所事故により、放射性物質による汚染の脅威にさらされた。東和地区は計画的避難区域に隣接しており、事故直後から国が発表する福島県の環境放射線の数値を注視していましたが、地元の正確なデータは分からなかった。土や水にどれだけ影響があるのか、田畑の作付けをしてよいのか、そもそもここに住み続けてよいのか、何も分からず不安な日々が続いていた。⁽⁵⁾

2-5 産業

二本松市の産業は、江戸時代前期から続く二本松家具や、酒造及び観光等の地場産業、水稲、養蚕、野菜、畜産、葉タバコ及び林業などの農林業を中心に発展してきましたが、昭和30年代後半からの高度経済成長に伴い産業構造は大きく変化しました。第1次産業への就業者数が年々減少の一途をたどり、第2次・第3次産業への就業者数が増加している。この傾向は今後も続くことが予想される。⁽⁶⁾

また、産業別人口(表 2-2)を見ると、平成 27 年(2015 年)の就業人口総数に対する割合は第 1 次産業 8.3%、第 2 次産業 35.8%、第 3 次産業 53.7%程度となっており、経年変化では第 1 次産業と第 2 次産業の減少が進んでいることがわかる。

表 2-2 産業別人口 (文献⁽⁷⁾より抜粋)

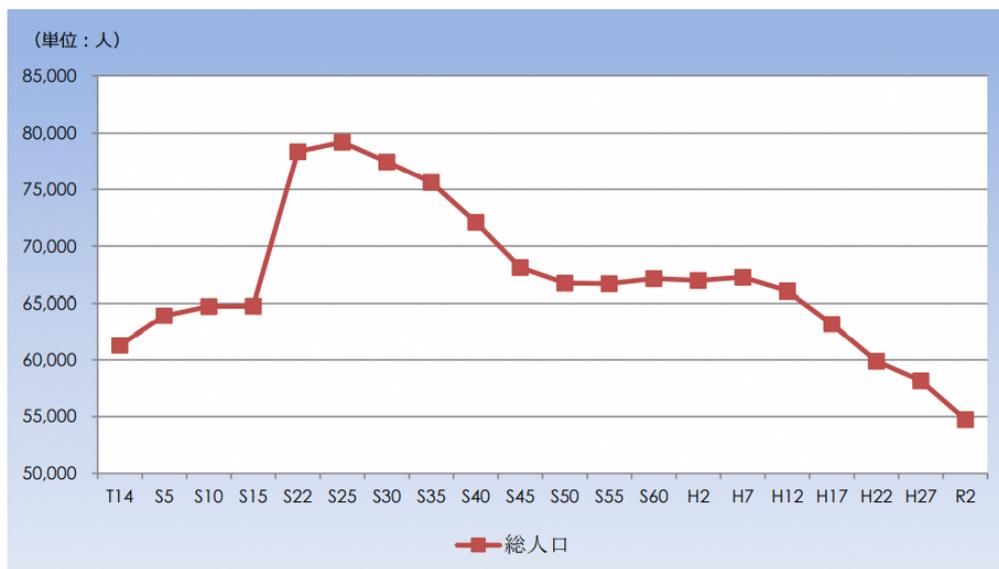


資料) 国勢調査

2-6 二本松市における人口の状況

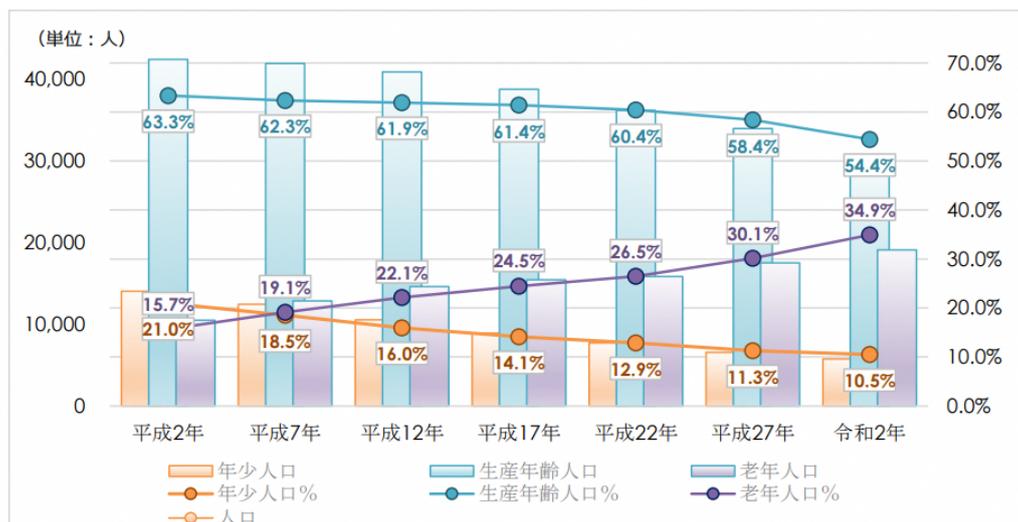
国勢調査における本市の人口は、昭和 25 年(1950 年)の 79,215 人をピークとして減少傾向となり、昭和 50 年(1975 年)から平成 12 年(2000 年)までは、66,000~67,000 人前後と横ばいで推移してきた。その後再び減少傾向となり、令和 2 年(2020 年)の総人口は、54,748 人となっている。(表 2-3) また年齢 3 区分別の人口(表 2-4)をみると、平成 7 年(1995 年)に老年人口が年少人口を上回り、少子高齢化が進んでいることがわかる。⁽⁷⁾

表 2-3 総人口の推移 (文献⁽⁷⁾より抜粋)



資料) 平成27年(2015年)までは国勢調査、令和2年(2020年)は福島県の推計人口(平成27年国勢調査確定値に基づく推計/10月1日現在)

表 2-4 年齢3区分別の人口 (文献⁽⁷⁾より抜粋)



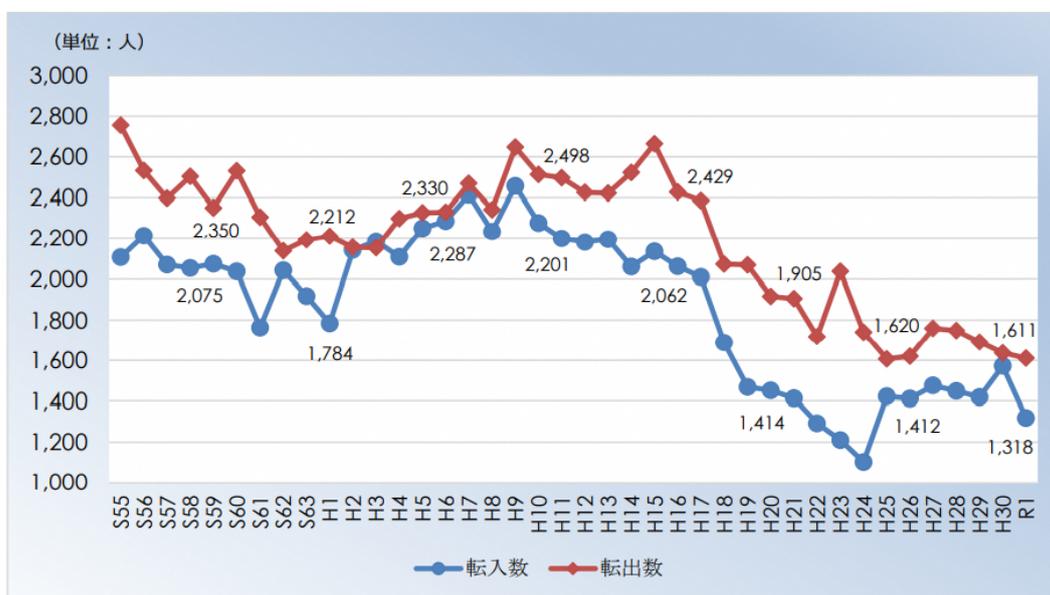
資料) 平成27年(2015年)までは国勢調査、令和2年(2020年)は福島県の推計人口(平成27年国勢調査確定値に基づく推計/10月1日現在)

転入・転出数の推移についてみると、社会増減は平成3年(1991年)に一旦増加に転じたものの、その後は減少傾向が続き、平成23年(2011年)には東日本大震災によりおおきな減少が見られた。平成25年(2013年)以降、社会増減は回復傾向にあるが依然としてマイナスで推移している。⁽⁷⁾

表 2-5 転入・転出数 (文献⁽⁷⁾より抜粋)

年	S55 (1980)	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1
転入数	2,107	2,214	2,071	2,055	2,075	2,037	1,763	2,043	1,918	1,784
転出数	2,755	2,534	2,398	2,505	2,350	2,531	2,305	2,139	2,194	2,212
社会増減	-648	-320	-327	-450	-275	-494	-542	-96	-276	-428
年	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
転入数	2,142	2,187	2,109	2,251	2,287	2,415	2,235	2,459	2,277	2,201
転出数	2,156	2,154	2,299	2,328	2,330	2,470	2,343	2,648	2,515	2,498
社会増減	-14	33	-190	-77	-43	-55	-108	-189	-238	-297
年	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
転入数	2,182	2,196	2,061	2,136	2,062	2,010	1,688	1,469	1,452	1,414
転出数	2,426	2,423	2,524	2,665	2,429	2,386	2,073	2,070	1,917	1,905
社会増減	-244	-227	-463	-529	-367	-376	-385	-601	-465	-491
年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
転入数	1,292	1,211	1,103	1,423	1,412	1,476	1,450	1,419	1,572	1,318
転出数	1,718	2,038	1,740	1,607	1,620	1,759	1,748	1,691	1,636	1,611
社会増減	-426	-827	-637	-184	-208	-283	-298	-272	-64	-293

図 2-2 転入・転出数 (文献⁽⁷⁾より抜粋)



資料) 福島県現住人口調査年報

参考文献

(1)二本松市公式ウェブサイト/気候・風土

<https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/page/page002128.html> (2022.01.28 入手)

(2)福島県、二本松の気温、降水量、観測所情報

<https://weather.time-j.net/Stations/JP/nihonmatsu> (2022.01.28 入手)

(3)福島民友新聞 民友 net(相場街道・全2回)

<https://www.minyu-net.com/serial/kaidou/FM20160124-044690.php> (2022.01.28 入手)

(4)議会概要 二本松市議会 令和3年4月

https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/data/doc/1586908709_doc_76_0.pdf (2022.01.28 入手)

(5) 東日本大震災 被災地の復旧・復興に向けて：農林水産省

https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1306/mf_news_00.html (2022.01.28 入手)

(6) 二本松市過疎地域自立促進計画(案) 平成22年度～平成27年度 p2

https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/data/doc/1509514493_doc_8_8.pdf (2022.01.28 入手)

(7)二本松市人口ビジョン (2021改訂版)

https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/data/doc/1626739075_doc_150_0.pdf (2022.01.28 入手)

3. 地域の暮らし

3-1 生活環境について

A. 日常生活

1) 仕事について

図1は竹ノ内集落と木幡全体の第1次産業、第2次産業、第3次産業の割合である。両方とも一番割合が高いのは第2次産業であり、一番割合が低いのが第1次産業であるが、特に竹ノ内集落はその傾向が強い。

地域の方に伺ったところ、二本松市中心や福島市の方へ仕事に出る方が多いとのことであった。農業や林業を兼業する方もいる。農地の維持コストや労働力の問題で、農業だけの生活は厳しいようである。

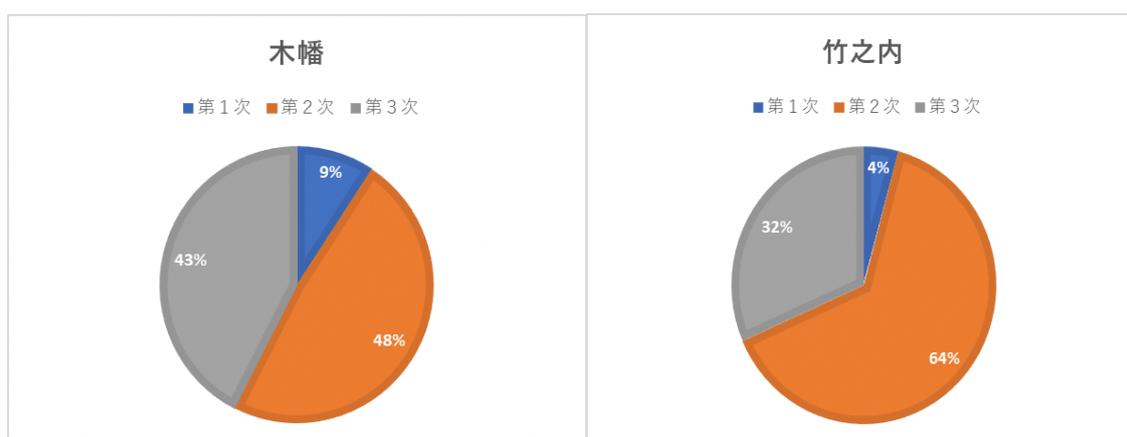


図1 第1,2,3次産業の割合

2) 生活施設について

二本松中心や福島市の生活施設に行き、買い物をする方が多い。郵便局、公民館は東和地区の各地域に四つずつあり、コンビニエンスストアや薬局、ガソリンスタンド、支所などは特に針道に集中している。(図2参照)

3) 子育て環境

二本松市には子育て関連施設として、保育所は10件、幼稚園は12件、認定こども園は6件、小規模保育事業所は3件、認可外保育施設は2件立地している。東和地区内には、認定こども園である「とうわこども園」が立地している。

東和小学校、東和中学校は針道地区に立地している。竹ノ内集落からは7km以上離れていることもあり、登下校時に学校へのバスが出ている。

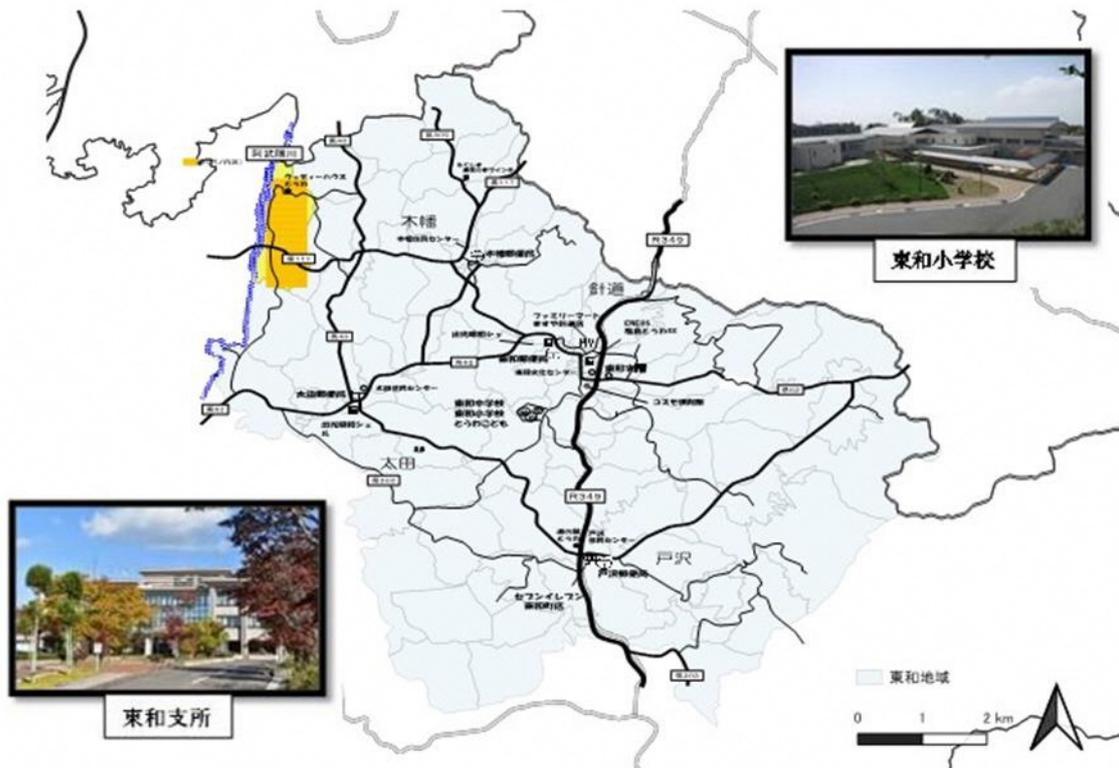


図2 日常生活に関連する施設



図3 医療施設

4) 医療施設

東和地域には診療所、クリニックが3件立地している。その1つである、風邪などの軽い症状の患者が多く訪れる東和クリニックは針道にある。重い症状の場合は、二本松総合病院（車15～20分）、福島県立医科大学（車で30分）などを利用することが多い。

5) 移動

車移動中心の生活になっている。また、起伏が大きいため徒歩や自転車の利用は困難。バスは、小中学生の登下校時に東和小学校から東和地区全体に広がるコミュニティバス¹⁾や、1～2時間に一本、二本松駅前から太田、針道を通る路線バス¹⁾がある。また、東和地区内の運行のみで予約制の乗合型であるデマンドタクシー²⁾も存在する。

B. 地域の活動

1) 行事・お祭り

木幡の幡まつり、針道のあばれ山車、東和ロードレース大会などが開催されている。詳しくは3-2C節に記載する。

2) 地域自治

竹ノ内集落の地域自治の体制は、区長、区長職務代理、班長5名、農事組合長、統計調査員、スポーツ委員、防犯協会役員2名、交通安全協会役員2名、交通安全母の会役員2名、女性防火クラブ役員2名となっている。年中行事として、春の道づくり、クリーンアップ作成、秋の草刈り、寄せ伐りが実施されている。その他にもお寺の維持管理があり、区民は全員参加する。また、各班にお堂があり、お祭りが実施されている。



写真 道づくり活動の様子

参考文献

- 1) 福島交通株式会社 (アクセス日 2022/01/26)
https://www.fukushima-koutu.co.jp/bus/map/02index_niho.html
- 2) 東和地域デマンドタクシー・コミュニティバス時刻表 (アクセス日 2022/01/26)
https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/data/doc/1601279512_doc_18_0.pdf
- 3) 二本松市公式ウェブサイト 図2使用写真 (アクセス日 2022/01/29)
<https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/page/page001648.html>
- 4) 病院なび 福島看護職ナビ 国立大学法人福島県立医科大学附属病院

図3使用写真 (アクセス日 2022/01/29)

- 東和クリニック - 二本松市(医療法人博愛会) 【病院なび】 (byoinnavi.jp)
<https://www.fmu.ac.jp/byoin/>
<https://www.f-kango.net/guide/?hospital&id=52>

3-2 魅力について

A. 自然

東和地域では一年を通して四季折々の自然が感じられる。春には各地で桜が咲き誇り、なかには祭田の桜という樹齢 800 年のものがあり、見ごろの時期には多くの観光客が訪れる¹⁾。また、6月下旬から7月中旬にかけては あじさい寺として有名な高林寺に数多くのあじさいが咲き、県外から多くの人を訪れる観光名所となっている¹⁾。秋には自宅周辺にて日々紅葉が進む様子を楽しむことができる。さらには、地域住民が個人で木や花を育てており、地域全体で綺麗な植物の風景を作り出している。その他にも豊かな自然に囲まれており、特に木幡山の大杉は推定樹齢が 700 年で県の名称天然記念物に指定されており、生命力溢れる立派な佇まいをしている¹⁾。



写真1 祭田の桜¹⁾



写真3 高林寺（あじさい寺）¹⁾



写真2 木幡山の大杉

B. 里山の風景

里山の風景として特徴的なものはまず、街灯が少ないことで星が夜空に鮮明に映ることがあげられる。またそのことによってホテルが数多くみられる。7月には民宿でホテル観賞会が開かれている³⁾。それに加えて里山ならではの小動物との共生の風景もうかがえる。いのしし、たぬき、いたちなど農作物を荒らす原因にもなるけれど、同じ土地で暮らす生き物

同士、共生していこうという精神が根付いている。

C. 伝統文化・行事

東和地域には伝統的な祭りがあり、大きく二つの祭りがある。まず、日本三大幡まつりといわれる木幡の幡まつりは 1055 年の役に由来すると言い伝えられており、国の無形文化財にも指定されている¹⁾。祭り当日には白幡を先頭に色とりどりの幡による行列が組まれる。次に針道のあばれ山車は 400 年の歴史があり、凶作や疫病の流行があった際、山車を奉納したことが始まり。豪快な太鼓の鳴り響く中、激しい山車のぶつかり合いが行われる¹⁾。また、大々的な行事として東和ロードレースがある。この大会は 1970 年に「いなほ陸友会」が誕生し、大衆マラソンを目標に開催された¹⁾。地獄坂など、急勾配のコースが特徴的である。



写真4 木幡の幡祭りの様子¹⁾



写真5 針道のあばれ山車¹⁾

D. 産業など

東日本大震災によって産業の形態は大きく変化した。震災によって地域が衰退する中、地元の元気を取り戻すという目標を掲げ、ふくしま農家夢ワイン株式会社 2014 年にワインの製造を始めた²⁾。ふくしま農家の夢ワイン株式会社では養蚕の衰退とともに使われなくなった桑畑をブドウ畑へと転用し、クラフトワイナリーを製造している²⁾。長い年月を経て培われた資源である土壌を利用した産業である。その他にも民泊を行っている民家が 24 軒あり、副次的な産業として行われている³⁾。



写真6 ふくしま農家の夢ワイン株式会社³⁾



写真7 ぶどう畑の様子³⁾

E. 地域の方が好きな（おすすめの）場所と風景

地元の方にお気に入りの風景を訪ねたところ、豊かな自然に囲まれた東和地域には魅力的な場所が数多くあることが分かった。その中でも流れの穏やかな阿武隈川沿いの美しい風景や、安達太良山を一望する高台からの風景、東和地域の葉山を登ることで見ることができる360度のパノラマ風景などが挙げられた。

F. 昔からの風景が残る場所

東和地域には棚田が広がっている場所があり、それを一望できるスポットがある。整備が行き届くことでより良い風景となることが期待できる。



写真8 阿武隈川沿いの風景



写真9 東和の布沢棚田⁵⁾

G. 特徴的な建物や町並み

二本松駅側から東和地域への玄関口近くにあり、宿泊研修施設であるウッディハウス東和は50名宿泊でき、さらに体育館やグラウンドを備え、レジャー施設としても利用できる⁷⁾。また、木幡山にある隠津島神社の三重塔は1472年に建立され、1902年に第一層を残し倒壊し、後に修復がなされた⁵⁾。

H. 集落・地区の活性化に向けた活動や場所

東和地域では活性化のために行われている事業が多くある。まず、雄大で穏やかな阿武隈川を生かし作られた阿武隈潜艇場は福島県カヌー協会や部活動などでの利用のほか、国体でのコースとして利用されている¹⁾。さらに、道の駅ふくしま東和は桑の葉など、東和地域の特産品を直売、販売するほか、食事処などの飲食を通して地元の特産を味わうことができる。上記でも紹介した農家民宿が活発に行われており、観光客を集め、地区の活性化をもたらしている。



写真12 農家民宿 糶家³⁾



写真13 道の駅ふくしま東和⁶⁾



写真10 ウッディハウス東和



写真11 隠津島神社の三重塔

参考文献

- 1) 二本松市観光連盟 <https://www.nihonmatsu-kanko.jp/?p=1929> 閲覧日 1/17
- 2) ふくしま夢ワイン <https://www.fukuyume.co.jp/#about> 閲覧日 1/23
- 3) 東和地域のグリーンツーリズム推進協議会 まるっと東和
<https://marutto-towa.com/%E8%BE%B2%E5%AE%B6%E6%B0%91%E5%AE%BF/>
閲覧日 1/23、24
- 4) 福島県 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/> 閲覧日 1/24
- 5) 木幡山隠津島神社
<https://okitushima.com/%E6%9C%A8%E5%B9%A1%E3%81%AE%E5%B9%A1%E7%A5%AD%E3%82%8A/> 閲覧日 1/24
- 6) 道の駅公式ホームページ <https://www.michi-no-eki.jp/> 閲覧日 1/24
- 7) ウッディハウスとうわ <https://woodypro.com/> 閲覧日 1/24

3-3 中学生へのアンケート結果

下図は、二本松市の集落支援員の方により令和元年度に実施されたアンケートの結果である。「集落づくりアンケート」とし、東和中学校の2、3年生を対象に行われた。図1では、この集落・地域に住み続けたいかという質問に対する回答である。



図1 この集落・地域に住み続けたいか

2年生と3年生による結果に大きな差はなく、約50%の人は“わからない”と回答している。中学生ということもあり、自分の将来やりたいことによってどのような選択を選ぶか、曖昧な状況故の回答であると考えられる。また、“思わない”という回答より、“思う”という回答の方がやや多い結果になっている。



図2 この集落・地域に愛着があるか

先ほどと同様に2年生と3年生による結果に大きな差はなく、約60%の人が“思う”と回答している。生まれ育った地域ということで、愛着を感じている人は多いことが分かる。しかし、愛着はあるが、住み続けたいかと聞かれた際に“思う”という回答の割合が約30%程度であることから不便さがあったり、地域外への魅力を感じていたりするのではないかと考えられる。



図3 地域・集落活動に関心があるか

2年生は、“関心はあるが積極的に参加していない”という回答が約60%であり、“関心はないし、関わりたいと思わない”という回答は20%となっている。しかし、3年生は“関心はあるが積極的に参加していない”という回答、約40%に対して“関心はないし、関わりたいと思わない”という回答が約35%とあまり差がなく、参加へ消極的な気持ちを持っている人が多い。これは、受験などがあり、忙しさゆえ地域活動に消極的になっているのではないかと考えられる。また、“関心はあるが積極的に参加していない”という回答者には、忙しくて参加する時間がないという意見もあった。登下校に時間を要する上、部活動や勉強もあり、時間に十分な余裕がないことが考えられる。今後、高校や仕事という選択をしていく中学生に向けたアンケートの結果を分析し、活性化には、“住み続けたい”と思うような集落・地域づくりが必要であると考えられた。

3-4 学生から見た竹ノ内集落（東和地域）

地域の持続性を考える際に、将来を担う若者をいかに巻き込むかは、重要な視点となる。そのため、若い世代が地域に対してどのような印象を持つのか、どのような関りの構築が考えられるのか、把握する必要がある。

そのため、今回調査に関わった学生に、①学生からみた地域の印象、②自身が地域と関りを持つのであれば、どのような関り方が考えられるか、この2点を中心に率直な意見を記述してもらった。率直な印象を重要視するため、記述された文章をそのまま掲載する。

4年生 女性①

学生からみた地域の印象

1. 自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット

・暮らしやすい部分

住民同士の関係が良好だと感じたため、困ったことがあったらすぐに相談ができること。
自然に囲まれているため、穏やかに生活できそうだと感じた。

・暮らしにくい部分

車がないと移動が大変であるところ。
病院が遠い点に不安を感じる。

2. 自身が地域と関りを持つのであれば、どのような関り方が考えられるか。

現時点では農家民泊に宿泊し、地域の農業体験などに参加する。また、社会人になり余裕ができたときに別荘を建てて利用する。自然が豊かで落ち着いた生活ができるため、別荘地として地域全体をブランド化する。

老後に第二の人生としてこの地域で生活するという可能性も考えられる。(例えば、たまに農家民泊に宿泊する、祭など何かのイベントに参加する、自然を楽しむために観光する、など)

4年生 女性②

1. 自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット

(暮らしやすい部分、暮らしにくい部分)

メリットとして土地を広く使えることと、地域の人と交流する機会が多いことが挙げられます。隣との距離が離れているため、プライバシーも確保されていますし、農業や果樹園など、広い土地を要するものにも挑戦できることが魅力的だと思います。また、一人暮らしをしていると近所付き合いなどが少ないため、普段から関わる機会が多い(関わりやすい)環境であることは、生活していくうえで心強いかと思います。

デメリットとして、車が必要になることが挙げられます。普段運転しない人にとって、移住のハードルが高いと感じました。生活圏が車で移動で考えられているため、高齢になってからも運転することが大変だと思います。

2. 自身が地域と関わりを持つのであれば、どのような関わり方が考えられるか。

除雪や草刈りなど地域の活動や、お祭りなどの行事への参加が考えられると思います。農業や果樹園などを始める場合は、地域の方に教わることで関われるのではないかと思います。

生活しない場合は、農家民宿やお祭りがある季節に観光のために訪れると思います。(石垣島の方の民宿、木幡の幡祭り、花見等)

4 年生 女性③ (現地調査不参加)

1.

近隣に住宅がないため騒音などに大きな気を使わなくていいことや地域の方との交流が多いため知っている人が近くに暮らしている(頼れる人がいる)安心感が竹ノ内集落の暮らしやすい部分である。現在、一人暮らしをしている中で、すぐ隣に人が暮らしているということで騒音にかなり気を遣うようになった。実家に暮らしていた際も、一軒家でしたが、隣の家の外壁同士の距離は数十センチであるため、声も聞こえていた。そのため、楽器の練習や少し大きな声を出すだけで隣に聞こえ、近所の方に声をかけられ恥ずかしさを感じたことが何度かあった。しかし集落では、隣の家との距離がかなりあり、近所への騒音面での気遣うなく、騒音面では暮らしやすいと感じた。また、一人暮らしをしていく中で隣に住む人がどのような人かわからないため、災害時などの行動に不安を感じていた。生活していく中で隣の家の人や近所の人を知らなくても困ることはないが、緊急時には知っているに越したことはない。そのため、集落という小さな地域であるため、人との交流が密であることは暮らしていく上で、もしもの時への不安を軽減すると思った。

私は、車を所有していないため、公共交通機関が十分でないことに不便さを感じた。坂道なども多く、集落内の移動にも自転車や徒歩では厳しいと思う。車があれば、さほど感じない不便さではあると思うが、車がないと暮らしていくことは厳しい環境だと感じた。また、生活に必要な施設や学校などが近くはないということにも不便さを感じる。私自身学校の近くに暮らしていることもあり、通学に時間がかからないというのは暮らしやすさに直結している。しかし、集落では車で移動、もしくはバスや電車で移動しないと通学通勤できない環境である。地域の方の話にも、仕事がないから集落を出て行くという気持ちがわかる。自分の生活に関わる場所は近くにないと暮らしにくいと思った。暮らしていけば、慣れてそのように感じることはないと思うが、暮らしていない者からすると暮らしにくさを感じる一番のポイントになると思う。

2.

私が他地域と関わりをもつきっかけは、大体 SNS からの写真が多い。旅行先を決める際にも、(有名観光地の少ない地域に限るが) SNS 上の写真をみて行ってみたいと感じるから

行き先になることが多い。そのため、もし地域と関わりを持つなら、このようなゼミの一貫で関わるか、旅行に訪れるかである。この地域は、決して近くはないので、お祭りやイベント（学校とは関連しない）のために訪れることはないと思う。そのようなお祭りやイベントは地域民で行うものであると感じているため、遠い地域のお祭りやイベントには参加しようとはあまり思わない。また、農家民泊も利用したことがないのでわからない。なので、私が自分自身で関わるなら旅行で訪れ、関わりを持つと考えた。SNS 上で綺麗な写真などが広がれば、知名度も上がり、訪れたいと感じる人が増える。以前、地域おこし協力隊の方が使用している SNS でも菊の花を水に浮かばせた写真など、綺麗だと感じたし、実際にみてみたいと思った。そのため、もっとそのような場所が増えれば行ってみたいと思い、実際に行動に移すと思う。現時点で私が知っている情報だけでは、遠方という部分も大きい。このようなゼミ活動以外で関わりを持つことはないかと感じた。

4年生 女性④（現地調査不参加）

①生活するとなった場合のメリット・デメリット

【メリット】

- ・車を運転することができれば、交通に不便を感じない
- ・ずっと住んでいる人がいるから、生活面で困ったことがあった際に聞くことができる

【デメリット】

- ・冬の積雪量が心配になる、高齢者が多いとどうしても雪かきができない
- ・近隣で働くのか、都市部に働きに行くのか選択肢として迷う
- ・数年後車に乗らなくなった際に、徒歩圏内で生活ができるのか、それともバスなどを使うのか

②どのような関わり方が考えられるか

- ・休日の旅行に訪れる（桜の観光、あじさい等の季節の花）（祭りを楽しむ）（蛍やいのしし等街中では見ることのない動物）
- ・民泊に宿泊
（民泊を気軽に楽しむことができる、複数の民泊をインターネットで検索して探すことができる）

3年生 男性①

1. 自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット （暮らしやすい部分、暮らしにくい部分）

メリット

住宅が密集しておらず、点々としている所が多いので、ほかの住民との距離が離れている状況での生活が考えられる。そのため周りを気にすることなくストレスフリーで生活ができる。また、外に出れば豊かな自然にあふれているため、自然がもたらす癒し効果や水、空気がおいしいといったことが期待できる。

デメリット

公共交通サービスがほぼ整っておらず、山間域ということで起伏が大きいので、出かける選択肢が車に限られてくること。何か車に支障が出れば、生活施設に行くところも困難になる。また、住民の年齢層が比較的高いため、同じ若者同士の交流が無いのが苦しい。

2. 自身が地域と関りを持つのであれば、どのような関り方が考えられるか。

(例えば、たまに農家民泊に宿泊する、祭など何かのイベントに参加する、自然を楽しむために観光する、など)

自身がここに定住すると考えると、ここ数年はあまり行われていないようだが、大人数が集まる祭りや草刈りなどの地域活動には積極的に参加する。それとは別に、普段の生活の中で車を多用すると思うので、二本松中心に行った帰り道に地域の方々が訪れそうな場所(道の駅、ウッディハウス東和、ワイナリー、生活施設など)に寄ったり、休日に景色がいい隠津島神社や阿武隈川沿いの道を散歩したりして交流を図る。

また、逆に人が集まるところの運営をする。例えば、空き地開発の手伝いをしたり、コンビニ、木幡マルシェでバイトしたりなど。

3年生 男性②

1. 自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット

メリット

- ・都会では体験できない四季の移り変わりを感じて生活することができるので、その分一日を大切に過ごすことができる。
- ・森林や山などを身近に感じられないところに住んでいるため、自然の恩恵が多く感じられる。
- ・新鮮な食材を食べることができる。
- ・岳温泉など身近に温泉地がある。
- ・山登りやキャンプなどの都会では味わえないレジャーを楽しめる。
- ・住居のDIYなどが比較的自由にできる。
- ・祭りなどは都会にはない雰囲気の伝統的なものを体験できる。

デメリット

- ・買い物をするのに不便である。
- ・地域住民と馬が会わなかったとき暮らしづらい。
- ・車が必須になり、子供などができた場合何かと移動に時間が割かれそう。
- ・自然災害リスクが上がる。
- ・土地の管理に時間が割かれる。

2. 自身が地域と関りを持つのであれば、どのような関り方が考えられるか。

(例えば、たまに農家民泊に宿泊する、祭など何かのイベントに参加する、自然を楽しむために観光する、など)

- ・貸し住居などを土日などだけ借りて、休日を都会から離れて暮らし一週間のリズムを調整する。
- ・桜や紅葉など、季節の自然を感じていないので、感じて見て気に入ったら時期ごとに訪れる。
- ・デスクワークのワーケーションとして施設が作られれば利用する。
- ・新規事業の運営者として管理や地域活性化の活動を行う。

3年生 男性③

自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット

メリット

地域住民の方とのつながりが強くなる。そのため、困ったことがあれば協力し合える環境がいいと思う。使われていない田畑を耕作することで、自給自足に近い生活をする事が出来る。

デメリット

車がないと移動に不便。仕事の少なさ。子供が少ないように感じたため、自分に子供が出来た時の子供の友人関係。

どのようなかわり方をするか

農家民泊に参加、農業体験に参加、土地の特産物(桑、ワイン)の購入、SNSでの里山の風景の発信

3年生 男性④

1.自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット

〈メリット-暮らしやすい部分〉

(1) 気候

- ・涼しい気候で過ごしやすい。
- ・雪遊びできるほどの雪が降る。

(2) 温泉

- ・地域住民が自然と集まる温泉施設があり(ウッディハウス東和内の温泉施設)地域住民との繋がりが得られる。
- ・温泉が好きな為

(3) 里山の環境

- ・人が優しい、

- ・自然豊かな環境のため、自然の中で様々な経験をすることができる

(4) 地域との関わり

- ・地域を維持、発展させていく一員になれる。
- ・地域の行事、イベントを通して地域の人たちと知り合えて交流が生まれる

〈デメリット・暮らしにくくなりうる要素点〉

(1) 利便性

- ・車社会の為、車が使えなくなった状況どうするかが懸念点
- ・山道の運転には慣れるのに時間が必要

(2) 仕事

- ・移住するとなると仕事が限定的になるのではないか

2.自身が地域と関わりを持つのであれば、どのような関わり方が考えられるか

(1) 観光の際、農家民泊を利用する

東和地区は桜や紅葉の良い地域なので、シーズンに合わせて観光してみたい。その際には農家民泊を利用して地域の食材を使った料理を味わったり、温泉に入ることによって地域と関わりを持っていきたい。

(2) 地域の産物を買う

道の駅東和 HP 等より、オンラインショップを利用する。移住しない限り距離的な問題はあるので買いに行けなくとも、東和地区の美味しいものを楽しむことができる。

3 年生 男性⑤（現地調査不参加）

1. 自身が地域で生活するとなったと想定した場合の、メリット・デメリット(暮らしやすい部分、暮らしにくい部分)

自然が豊かな場所で、穏やかな気持ちで過ごせそうだと感じた。また地域の繋がりを求める気持ちが高いことにも魅力を感じる。一方で、若い人が少ないこと、仕事の面での不便さや、将来家族を持った時の病院、学習施設等の面での不安がある。

2. 地域を盛り上げるための企画に参加したり、農家民泊を利用したり、祭りなどのイベントに参加をしたい。

4. 活性化を検討するための要素

4-1 これまでの取組

A. 移住促進・流出(転出)軽減対策

行政による移住促進に関する取組、制度、補助については以下が挙げられる。

1) 移住促進住宅取得奨励金

若者の住宅取得を奨励し、定住の促進および人口の増加を図るため、市外から新たに転入し、新築・中古住宅を取得した方に移住促進住宅取得奨励金を支給する¹⁾。

2) 二本松市移住支援金制度

福島県二本松市では移住者に対して移住支援金事業をしている。これは条件を満たした場合、単身世帯は60万円、二人以上の世帯には100万円を支給するものとなっている。移住者にとって経済的な問題は大きなものがあり、何かとかさんでしまう移住費用に対して効果的な制度設計となっているといえる¹⁾。

3) 空き家改修助成金支給事業

本市では後述する空き家対策のほかに空き家改修助成金支給事業というものがある。これは空き家を有効活用し、市内への移住および定住の促進による地域の活性化を目的として、新たに転入される方等を対象に空き家改修費助成金を支給するといったものである¹⁾。

4) 多世代同居住宅改修助成金支給事業

子育て支援と高齢者支援を促進することで、定住人口の増加を図るため、新たに三世代以上が同居するために住宅を改修する方に改修助成金を支給する¹⁾。

5) 空き家バンク

空き家バンクとは二本松市内の空き家の有効活用を通して、都市住民との交流拡大や定住促進による地域の活性化を図る事を目的に、空き家情報の提供を行う制度である。市内の空き家などを賃貸および売却希望する所有者から物件の提供を求め、市の「空き家バンク」へ登録した情報を、定住等を希望する方へ提供し、空き家の有効活用を推進している¹⁾。

空き家バンクの流れは、大きく分けて4段階である。1.土地・建物を売りたい方・貸したい方から申し込み受付、2.市ウェブサイトでの空き家情報掲載、3. 定住・二地域居住等の希望者から申し込み受付、4. 売買・賃貸交渉（直接型と間接型あり）が完了したのち定住・二地域居住の開始。

このように二本松市では移住者支援と空き家対策をともに解決していく手段として上述したような制度を設けている¹⁾。

地域の方による活性化に関する取組については以下が挙げられる。

1) 地域おこし協力隊の方による活動

地域おこし協力隊とは人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズにこたえながら地域力の維持強化を図っていくことを目的とした制度である。ここでは東和地区でご活躍されている渡辺さんご夫妻の活動をピックアップして紹介する²⁾。

① 観光 PR 活動

これは SNS を積極的に活用し、世界中のより多くの人々に東和地区の魅力を知ってもらう活動。また、木幡の旗まつりに代表される地域行事のみならず東和地区で起こっている日常を見ることができる³⁾。

② 農家民宿用の HP 作成・管理

地域の人がやってこなかったこと・わからないこと等を渡辺さんが支援している。こうした支援により東和地区における情報発信の一助となっている⁴⁾。

③ 趣味を生かした地域住民との交流づくり

もともと料理について知識があった渡辺さんは赴任した東和地区でその知識を基に料理教室を開いた。この料理教室は月に 1 回の頻度で開催されており地域住民を巻き込んだ活動がなされている。オンラインヒアリング調査で浮き彫りとなった地域コミュニティの崩壊の対策となる活動である⁵⁾。

2) 民泊

農家を営む住民が農家民泊として運営している。・福島県二本松市東和地区で営まれている農家民衆は延 24 件である。宿泊の際にかかる宿賃は地区全体で統一されているのが特徴である。大人一人当たり 5000 円から利用可能（子供料金は要相談）となっている。

現在営まれている農家民泊は殆どが現地で農業を営んでいる住民によるものである。しかし、中には沖縄出身の移住者によって営業される民泊（農家民宿「ゆんた」 現地調査での区長の渡辺さんからの案内より）の事例もある。このように東和地区で行われている農家民宿には観光客を受け入れる宿としての機能だけではなく移住促進のための足掛かりともなりうることが考えられる。

実際に宿泊した渡辺さんが運営している民泊では、地元の食材を使用した食事や地元のワイナリーで製造されているワインで出合いに乾杯と宿泊するだけでなく地元の方々との交流を体験することができ、一般の宿泊施設では味わうことのできない体験をすることができる⁶⁾。



民泊の一例



宿泊時の朝食

B 広域での資源

1) 岳温泉・あだたら高原

岳温泉周辺には安達太良山があり登山やパノラマを楽しむことができる。高原内にある牧場では放牧されている牛や野生のニホンリスなどの動物を見ることができる。ウッディハウス東和から車で約30分で訪れることができる（Google マップより試算）⁷⁾。

2) 羽山のパノラマ

春には山ツツジ、レンゲツツジ、スズランが咲く。羽山の麓には果樹園があり、シーズンになると果物狩りの観光客で賑わう。ウッディハウス東和から車で約20分で訪れることができる（Google マップより試算）⁸⁾。

3) 二本松の菊人形

二本松市に秋の訪れを知らせる菊人形。霧ヶ城を舞台に菊の花や紅葉を楽しむことができる。ウッディハウス東和からは車で約20分で訪れることができる（Google マップより試算）⁹⁾。



牧場の牛¹⁰⁾



羽山¹¹⁾



菊人形¹²⁾



紅葉時のあだたら高原¹⁰⁾

C. 仕事・雇用

1) 林業

林業の復興や森林整備により子供の遊び場やキャンプ場、森林浴など豊かな自然を楽しめる場所をつくっていきたいことが確認できた。(2021年11月30日オンラインヒアリング調査より)

2) 原木しいたけ

東日本大震災に伴う風評被害により原木しいたけ栽培に影響が出ている。それ以前では東和地区内でグループを作り栽培をしていた。現在は原木シイタケの再生を目指している。このような経緯から原木シイタケ事業の再生により新たな雇用が生まれる可能性がある。(2021年11月30日オンラインヒアリング調査より)

3) 花

東和地区で生花業を営んでいるのは5件ほどある。農地の規模は10~30haほどで、働き方は農業と並行して花の栽培を行うことが多いようである。例えば高野さんは農業をすることができない秋から冬の時期にかけて栽培が可能な菊の栽培をしている。(2021年12月8日オンラインヒアリング調査より)

D. 関係人口づくり

ワーケーションは、「Work (ワーク)」と「Vacation (バケーション)」の造語であり、リゾート地や地方等の普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得等を行う仕組みである。テレワークと心身の健康・生産性を両立できる働き方として注目されている¹³⁾。東和

地区では 1 つの取り組みとして農家民宿と併せてワーケーションの取り組みが行われている。また、民家を改装・改築してサテライトオフィスやワーケーション施設にできないかという意見が出ているようである。(現地調査でのヒアリングより 2021 年 12 月 19 日)

また、田畑のオーナー制度にも取り組まれていることが確認できた。オーナー制度とは、会費を支払うことで、農村にある棚田・耕作放棄地のオーナーになることができる制度である。オーナーは、田植えや稲刈り、収穫といった農作業などを体験できるほか、地元農家の栽培指導を受けることもできる¹⁴⁾。

4-2 活性化に活用可能な資源

A. 空き家

空き家の管理者が集落から離れたため、ほとんどの空き家が勝手に使えない状況である。かつて東和地区では養蚕業が栄えていたこともあり養蚕小屋が残っている。そのままの状態で保存されているのは 2, 3 件である。

養蚕小屋を改装・改築して利用することもできる。昔建てられた小屋を改装・改築して利用するために二本松市が設定している、空き家改修助成金支給事業を利用することで経済的な支援がなされ空き家の有効活用が促されるだろう。

(2021 年 12 月 18 日現地調査の際行われたワークショップにて住民の方より)

B. 竹

東和地区内には竹が茂っている場所が多数確認できた。これは過疎化・農業従事者の高齢化、後継ぎ問題等による耕作放棄地が増加してしまったことで農、地の管理が行き届きづらくなりどんどん竹が増えてしまっている為である。

(2021 年 12 月 8 日オンラインヒアリング調査にて高野さんより)

C. ワイナリー

東和地区には「ふくしま農家の夢ワイン」¹⁵⁾ というワイナリーがある。創業の経緯は二本松市の地元住民の持ち寄り会にて設立メンバーである農家たちが夢を語り合い、耕作放棄地の解消や若者の集える場の創設を目指すことを目的として、2012 年に 1 からワインづくりをスタートした。担当者は移住者がワインづくりで利益を出すまでには 3 年の我慢が必要だという。その為、ワインづくりに挑戦した人はいるものの今までに続いた人はいないという。ブドウの栽培のしやすさ、経験者による指導等の利点はあるが移住者がワインづくりを生業としていくにはハードルは依然として高いことが分かった。

移住者には積極的にワイン農家をしてもらいたいという地域の希望もあることから、移住者に対しどのようなバックアップを行っていくか検討する必要がある。

(2021 年 12 月 18 日、19 日現地調査で福島農家の夢ワイナリーの担当者からの話より)

参考文献

- 1) 二本松市移住・定住サイト “定住に興味ある方へ一住む”
(ア) <https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/page/dir002458.html> , 2022年1月29日
- 2) 地域おこし協力隊 “地域おこし協力隊とは”
(ア) <https://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/index.html> , 2022年1月29日
- 3) 東和地区関係の SNS 情報
(ア) <https://lit.link/ryowp> , 2022年1月29日
- 4) 2021年11月30日オンラインヒアリング。東和で人生を耕そう
<https://touwanosato.net/news/wp-content/themes/michinoekitowa/pdf/handbook.pdf> , 2022年1月29日
- 5) 2021年11月30日オンラインヒアリング
- 6) 道の駅ふくしま東和“農家民宿”
<https://touwanosato.net/農家民宿/> , 2022年1月29日
- 7) 岳温泉観光協会“岳温泉について”
(ア) <https://www.dakeonsen.or.jp/> , 2022年1月29日
- 8) 観光情報サイトふくしまの旅“羽山（麓山）”
(イ) <https://www.tif.ne.jp/jp/spot.html?spot=6694> , 2022年1月29日
- 9) 二本松観光処“二本松の花”
(ウ) <https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/page/page000365.html> , 2022年1月30日
- 10) <https://www.dakeonsen.or.jp/dakeonsen/adatarakogen> より 2022年1月23日
- 11) <https://www.tif.ne.jp/jp/spot.html?spot=6694> より 2022年1月23日
- 12) <https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/page/page000365.html> より 2022年1月30日
- 13) JTB 法人サービスサイト“ワーケーション”
<https://www.jtbbwt.com/business/service/solution/benefit/workation/>, 2022年1月29日
- 14) 地域への新しい取り組み関係人口ポータルサイト“あすかオーナー制度”
(ア) https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/zenkoku/01_asukamura.html , 2022年1月29日
- 15) ふくしま農家の夢ワイン“会社概要”
(イ) <https://www.fukuyume.co.jp/#products> , 2022年1月29日

5. 地域の活性化提案に向けた基礎的検討

この章では、4章までの整理を基に、地域の活性化の提案内容を検討する基礎を築くための検討を行う。

5-1 空き家・廃校の利用

全国的に空き家や廃校の活用の事例¹⁾は蓄積が進んでいる。竹ノ内集落に点在する空き家の活用や廃校等の活用の1つのアイデアとして、サテライトオフィスやワーケーション施設として利用することが考えられる。交流人口、ひいては移住者増加につながる可能性が考えられる。

サテライトオフィスには、設置地域によって、都市型・郊外型・地方型と分類される。竹ノ内集落の場合、地方型サテライトオフィスに該当する。この地方型サテライトオフィスでは、企業側からみると、自然災害の発生や感染症の流行などにより事業を継続できなくなるリスクを削減できるメリットが挙げられている。詳細は複数の事例を付録に整理したため、そちらを今後の検討材料とする。

規模については、一般的なオフィスの一人当たりの面積は一人当たり三坪（約10㎡）程度であることを踏まえ、活用可能な建物の規模に応じて用途を検討する必要がある。

5-2 田畑の利用

二本松市では既に田畑のオーナー制度を実施しているが、竹ノ内集落および東和地域の田畑の拡がりを鑑みると、オーナー制度をより推進することも効果的であると考えられる。

以下は事例^{2), 3)}から得られたオーナー制度の傾向である。

A. オーナー制度の流れ（水田の場合）

- 1) 行政と連携して、春前に次年度のオーナーを募集する。
- 2) オーナーになると、3万円程度の会費を払って、1アール程度の一定区画の水田を割り当てられる。
- 3) オーナーは年数回来訪して、地元農家たちの指導を受けながら、田植え、草刈りなどの作業を行う。
- 4) その区画で収穫された米はオーナーのものになる。最低収穫保証をしているところもある。

B. オーナー制度の五つのタイプ

- 1) 農業体験・交流型：農業体験に重きが置かれ、田植え、草刈り、稲刈りなどの来訪が2～3回。（約6割）

- 2) 農業体験・飯米確保型：農業体験よりむしろ一家の飯米を確保するのが主目的。体験のための来訪は2～3回。I型よりも配分される収穫物の量が多く会費も高い。
- 3) 作業参加・交流型：来訪の回数や作業の種類が増え、農業体験から一步進んだ種型。来訪の回数は、田起こし・田植え・草刈り・稲刈り・脱穀などの作業に4回以上参加。(2.5割)
- 4) 就農・交流型：来訪頻度が最も高く、年10回以上。作業には小型の農業機械なども使用。
- 5) 保全・支援型：基本的に金銭的な支援を行い、オーナー棚田の管理費や保存会などの組織の運営費に充てる。収穫期に少量の収穫物がお礼として届くものも多い。

C. 経済面について

オーナーからの会費は、水田の地代、苗・肥料・用水などの費用、日常管理をする農家の日当、オーナーへの案内の事務費などに使用される。人材面・財政面で行政や企業のサポートを受けている地区もある。

5-3 竹の活用

1) 建築資材としての利用

竹は日本の住宅の土壁では、内側の補強材として活用されてきた。また、内装材や半屋外空間の設えなどに用いられることもある。そのため、空き家の活用を提案する際には、積極的に竹を使用することも考えられる。

2) 工芸品・イベント活用

竹を用いた工芸品は多数挙げられる。最近では、鞆や食器などにも竹を活用する事例も確認できる。地域に繁殖する竹の種類や分布状況を具体的に把握しつつ、地域の方の特技等も踏まえ、小さな取り組みを実践することができるのではないかと考えられる。

長期的には、産業化の可能性も見据えることが重要だと思われる。

また、イベント等の活動への活用も考えられる。例えば福岡県福岡市の博多で取り組まれている灯明ウォッチングや、熊本県熊本市でのみずあかり、大分県白杵市の白杵竹宵などが挙げられる。二本松市では「二本松の提灯祭り」を実施しているため、このイベントとの連携も可能性として挙げられる。

3) 炭として利用

木炭に比べ作り方が難しいが、竹炭ならではの特徴もあり、木炭には変えられない魅力と効果がある。竹炭の組織は細かな穴がたくさん開いていて、ハチの巣のようにきれいな構造である。この穴があるおかげで吸収力が高く、湿度や臭い、有害物質を吸う働きをする。竹

炭は天日干しすると吸収していたものを外に放出することから、除湿・消臭・除菌効果を継続的に期待できる⁴⁾。

4) 農業資材としての利用

これはアイデアベースの案になるが、現地調査で訪ねた、ふくしま農家の夢ワインで聞いたことを参考に、葡萄の木の支柱を鉄パイプの代わりに竹を使用するとはできないかと考えた。また、それに限らず、農業資材としての可能性を広げることはでき兄だろうか。もちろん、金属製の既製品よりは強度は下がるが、安価である。

以上のような案をたたき台に地域の方と検討を進め、まずは実践できることに取り組み、少しずつでもよいので活用を目に見える形に進めることが重要であると考え。それにより地域の機運も高まると考えられる。

5-4 自然の中での滞在

近年、自然の中でのアクティビティが人気になってきている。周囲の人の目を気にせず、都会では味わうことのできない自然を感じる事が強みである。

① 森のアスレチック

いつものスポーツとは違い、より原始的に本能的に体を動かすことを目的とする。子供の遊び場や、親子をターゲットとした休日の過ごし方の提案ができるのではないか。

② グランピング・キャンプ

都会では味わうことのない”非日常を”味わうことを目的として行う。グランピングとキャンプの二つを提案する。また、5-3 で述べた竹の活用とのつながりも検討できるのではないかと考える。

③ 見晴らしの良い場所への休憩所の設置

観光客などの来訪者が景色を楽しんだり、地域の住民が休憩したり井戸端会議を楽しんだりする場所としての屋根のある建物、東屋、テラスなどを設置できると、地域の魅力である眺望景観を活用できると考える。その素材として地域の材料(竹など)を使えるとよい。

④ カヌー

近年は水辺の活用も全国的に機運が高まっている。阿武隈川へのアクセスが良いこと、カヌーを楽しむ環境が既に整備されていることは、全国的に見ても大きな強みであると考えられる。農家民宿の利用者など、来訪者に気軽に阿武隈川の水辺を体験してもらう仕組みがあると良いと思われる。例えばカヌーだけでなく、スタンドアップ・パドルボート (SUP)

などが挙げられる。

5-5 四季の魅力を生かした観光促進

東和地区および周辺の地域には魅力的な自然が多数存在する。季節が変わっても、それぞれの季節での魅力を楽しめる。それらを、自然以外の魅力、通年楽しめる魅力と組み合わせ、観光ルートを提案することも考えられる。

春：桜、羽山のつつじ

夏：アジサイ、さるすべりの花、川を生かしたカヌー、ほたる

秋：紅葉、菊

冬：安達太良山周辺のウィンタースポーツ（スキー、雪山登山など）、岳温泉

例えば、青森県青森市は「My ルートガイド」⁵⁾という取組を実施している。これは、出発点と行きたいところをマップ上に設定すると、自動的に寄り道できる観光スポットを提示してくれるものである。

5-6 その他のアイデア

1) ワインを生かしたイベント

夢ワインはもちろん福島県内や県外近辺のワイナリーと連携し、ビアガーデンならぬワインガーデンを展開する。ワイナリーから生樽（ステンレス・ケグ）に詰めて直送されたワインを、生ビールのようにサーバーから直接提供する。また、ワインのほかにもワインに合う料理（地域で穫れたジビエ・山菜や桑を利用したおつまみなど）を提供する。

2) 桑を利用した産業

桑の葉・根・実・茎は古くから漢方や生薬として利用され、現代でも桑特有の機能性成分であるデオキシノジリマイシン（DNJ）による食後の血糖値上昇抑制効果を期待して、葉は茶や粉末などの形で利用されている。また、桑はGABAの摂取にも優れている。GABAを摂取することで α 波が増加するため、リラックス効果がある事が認められている。

例えば、島根県江津市では以下のように行われている⁶⁾。圃場・加工場を有機JAS認定を取得し、桑の栽培加工を行う。健康食品会社、通販会社、百貨店のほか、インターネットを活用して直接消費者へ商品を販売している。販売品目は自社の商品、OEM商品、乾燥原料、抽出エキス粉末原料等があり、機能性農産物・漢方原料等の受託生産・加工も行っている。

ポイント・効果

- 桑を復活させ、有機栽培の「島根の桑」というブランドを確立させた
- 農業の6次産業化を実践し、地元が潤う地域産業に発展
- 地元高齢者を積極的に採用し、生きがいや健康づくりにも大いに貢献
- 有機JAS認証を取得したことにより、安全・安心という付加価値を得た

5-7 活性化の方向性・今後の方針

A. 活性化の方向性

まず、竹ノ内集落のみの範囲では提案が限られること、竹ノ内集落は東和地域の玄関口に位置することから、竹ノ内集落を中心に据えつつ、東和地域の範囲を視野に含めた活性化提案が望ましいと考えられる。また、交流人口増加のためには、より広い範囲で、観光資源等の人が集まる拠点との連携が求められる。岳温泉、安達太良山、二本松城跡など様々な資源が考えられる。

加えて、地域の方から、「健康」や「自然」、「エコ」といったキーワードが挙げられた。

以上のことを鑑み、例えば、以下のような活性化のための方向性がひとつ考えられる
コンセプト：健康や自然に関心の高い層をターゲットとした交流人口の確保

①自然の魅力や様々な集客資源との連携を活かした来訪者増加・農家民宿利用の促進

東和地域の季節を感じる自然の魅力、通年楽しめる魅力、歴史や地域の特徴を感じる魅力などを組み合わせる、更に広い範囲でみて、集客を見込める資源と連携する、これらにより観光プランを複数提案する。

地域の方との交流や地域の暮らし体験、地域の食材を用いた健康な食事を提供するなど、ホテルや旅館での宿泊とは異なる魅力づくり及びPRを行い、農家民宿への宿泊を促す。

②自然と健康を楽しめるサテライトオフィス誘致・ワーケーションのPR：

自然の中での働き方をPRする。地域の「空き」を活用し、オフィスワーク環境を整備する。並行して、自然の中でくつろげる、またはくつろぎながら仕事ができる環境整備を進める。眺望景観を楽しめるちょっとしたスペースや、水辺の過ごし方の提案、季節を感じる自然の中での過ごし方の提案などが考えられる。

空間づくりに関しては、積極的に竹を材料として活用できる仕組みを検討する。

B. 今後の方針

次年度（令和4年度）まで「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を継続し、その活動の中で、計画を具体化し、集落の方から申請できるよう準備を整えられればと考えている。

具体的には、活性化に活用可能な地域資源、地域の機運等の分析から、空き家等の場所に着目し、自然や風景、農家民宿等の魅力を活かす交流人口増加促進の提案・実証に関する活動を想定している。

- ・ 空き家活用（サテライトオフィス・ワーケーションなど）の提案・改修のための基本図面の作成
- ・ 竹の活用アイデアの具体化および実践
（空き家活用の材料、提灯祭りに合わせた竹灯籠作成、眺望の良い場所に休憩スペース

設置など)

- ・ 安達太良山登山者の農家民泊利用の可能性の検討
- ・ 農家民宿の実態調査

参考文献

- 1) https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_sisetujo-000010166_02.pdf
- 2) <https://www.nou-navi.maff.go.jp/tanadanikoi/owners/>
- 3) <https://tanada-navi.com/tanada/tanada-owner/>
- 4) <https://botanica-media.jp/5203>
- 5) https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/data/396/2057_jirei_h25.pdf
- 6) <https://www.nou-navi.maff.go.jp/case/detail/57/>

ヒアリング調査 一回目 11/30

参加者 ○二本松市東和地区：渡辺さん（区長） 高野さん（副区長） 竹山さん（集落支援委員）
菊地さん（集落支援委員） 渡辺さんご夫妻（地域おこし協力隊）

●前橋工科大学：辛島

齋藤（4年） 金（4年） 小山（4年） 杉崎（4年）

— 挨拶（省略） —

●小山

参加していただいた方のお仕事や行なっている活動は何ですか。

○渡辺さん

（区長）

区長を一年交代で代わっていくのでそれを今年やっています。

職場は福島市にある県の森林連合会に勤めていました。通勤は25~30分（車で）、混んでいけば40分くらいでした。定年後、地元の菅野建築さんに勤めている。

車で15分くらいの場所。今までやっていたことを基礎に地元の森林整備を行いたい。

震災によってシイタケ原木が使用できなくなっている山や使用されない杉の木があって間伐が進まない場所を間伐して前の森林に戻していきたいと思っています。他にも森で子供達が遊べるような、森林浴ができるような場所を作りたいと思っています。農業は米をやっていて、自分の家で食べるような野菜を作っています。

○高野さん

（副区長）

現在は自営業で農業をやっています。ここ1、2年は菊の栽培を行なっています。冬になると寒いので、路地栽培ができなくなっていて、7月から10月くらいまでを目安にやっています。（ハウス栽培は行っていない）花の終わった後に来年からになりますが、ユーカリという花木を植栽していく予定です。この地域、区長の渡辺さんからあったように平和なところでそれなりに住めば都かなって、平和なところではあります。郊外や市内に行くにも車で30分とか1時間で行けるし、自分は不便に感じていません。若い人の感覚からしたらどうかなってところはあります。年齢も年齢なので自分の体が動く範囲内で自然と競合して活動していければいいかなって思います。

●辛島

菊の栽培を行なっているのは集落や東和地区では、高野さんの所だけですか。

○高野さん

（副区長）

東和地区では自分の所と5件くらいあります。菊部会というのがありまして、そこも含めれば30件近くあります。個人でやっているのが多い人で30α、大体の人は10α前後ですね。耕作者も高齢の方が多いので、大きくはできないというのが現状であります。

○渡辺さん

（区長）

竹山さんから大学生の力を借りて集落の活性化、支援を受けたいのではないかと提案を受けたので、竹山さんお願いします。

○竹山さん

二本松市で集落支援に携わっています。地域の維持活性化に向けて活動していますが、少子高齢化でどこの集落も疲弊しがち、60年住んでいていいもの悪いものをあまり感じなくなっている中で、学生の力を借りようと思っています。ここ2年コロナ禍で地域、集落のコミュニケーションが取れていない、というような状況で地域のコミュニティが崩壊しつつある、この中でよりこの地域にあった活性化策を見出していただいて集落維持活性化

に向けていきたいと思うので、よろしくお願いします。

○渡辺さん

(区長)

補足ですが、大学で子供たちが出て行ってしまうので、大学生がいいなと思ってもらえるような場所だったら娘たちも帰ってくると思うので。仕事場が、収入がないと成り立たないと思うので仕事の種類も増やしていきたいと思っています。大学生の意見も聞きたいと思い、応募しました。

次は菊地さんお願いします。

○菊地さん

(集落支援委員)

私も、先程の竹山さんと同様、集落支援委員です。4月から始めたので手探りをしながら活動しています。住み慣れた場所でも歳を取っても元気に暮らしていける地域を作ろうと思って活動しています。集落の状況把握が活動の一つで、隣の針道地区の担当で、集落カルテで行事や困っていることなどを聞き取ることを今年行ってきました。その中で、課題が少子高齢化で世帯数減少やコロナで集まりもない、去年今年は特別な状況ですが、同じ行政区に住んでいてもどういう人が住んでいるか分からないという状況です。今後、当面10年後までを目処に地域が維持活性化されていくためには、今の課題を少しずつ話し合っただけで行動していきましょ、元気な集落づくりのための課題把握や提案をしていこうということではいつ災害が起こるか分からないため防災の意識を高めるために防災訓練に取り組む行政があります。その中で一人暮らしの高齢者は誰が避難を手助けするのかというのとかの確認ができています。この地域は助け合いなので。高齢者の見守りで高齢者のコミュニティづくりで行政ごといきいきカフェがあったり、100歳体操を行うサークルや認知症カフェなどの活動もあって高齢者の見守りを行っています。私個人として昭和一桁生まれの女性に聞き取りをさせてもらっています。子供時代や今までどういう生活だったかかなどを聞いて昔の文化を継承したいなと思っています。それと同時に世代交代の時期なので若い20代30代の方にも聞き取りをしています。若い方も結構高齢者との交流を求めている、ハンドメイドがすごい人がいたり洋菓子づくりをしていたり色々な人がいることがわかりました。来年、その人たちを集めて東和道の駅でマルシェを行うことになり、高齢者も若い方も繋がろうということで「東和つながるマルシェ」というテーマで行うことが決まった所です。今回、大学生が竹ノ内行政区に入ってくれるということが私も楽しみです。地域外から色々な人が入って地元の人と交流することで、新たな発見があって新たな取り組みが生まれると思うので、楽しみにしています。お願いします。

○渡辺さん

(区長)

次に地域おこし協力隊の渡辺さん、リョウマさんは二本松市役所東和支所の観光課で、クミコさんは東和道の駅で地域おこし協力隊として活動してもらっています。空き家を改修してできたら竹ノ内に住んで欲しいなと思っています。

○渡辺さん

(リョウマさん)

去年の春、移住してきました。地域おこし協力隊、国の制度で移住促進の事業の一つとして都市部から過疎地域へ将来移住を見込み、任期は3年でその自治体のミッションを行うというものです。私は観光PRというのをやっていて、コロナ禍であまりできていないですが、SNSなどを通して地域の情報を発信しています。二本松市役所の東和支所東和観光協会に所属しています。農家民宿のPRやおうちを紹介していただくなどで、渡辺さん(区長)にはお世話になっていて今日は呼んでいただきました。

○渡辺さん

(クミコさん) 同じく去年の春に移住して、私の任務は農家民宿のアピールや里山の PR をして外から人を呼び込むことをしています。具体的にはホームページを作成して管理しています。あとは、ツアーを組んで東和で親子農業体験なども行っています。前職が管理栄養士ということで食に興味がありますので、月に一回お料理教室を開いています。色々な形で魅力を発信していています。

●杉崎 渡辺さん（地域おこし協力隊）にお聞きしたいのですが、東和地区に住みたいと思うきっかけなど教えていただきたいです。

○渡辺さん

(リョウマさん) この任期が終わったら、農業をやりたいと思っています。この地域には農業をやっている人が多く、また、有機農業をしている方もいるのでアドバイスをいただきながらできるのではないかと思ったのが、理由の一つです。

○渡辺さん

(フミコさん) 私は、こちらに来る前は神奈川などの都心に住んでいましたので、自然に惹かれた所もあります。正直、仕事に関しては不安もありますが、東和地域には移住者が多いのでその不安を払拭する理由です。というのもあって自分たちもできるかなというのもあってこの東和地域を選びました。

●辛島 先ほど活動で SNS で発信していると言っていたのですが、どういうものかできたら今共有して見せていただけませんか。

↓画面共有

○渡辺さん

(リョウマさん) 二本松市地域おこし協力隊（東和地域）という名前でやらせていただいています。最近だと、にほんまつ菊手水というのを他の地域の協力隊と一緒に実施しました。二本松市は菊が有名で、中心の方に霞ヶ城というところで毎年菊人形展というのを行っています。日本でいう三大菊人形展。コロナ禍のため規模縮小で、何か菊を使ってできないかということで寺社の手水に菊を浮かべるというのを 1 ヶ月間行いました。他の地域の協力隊と協力してイベントなども行ったりしています。

●辛島 先ほど移住者が多いと言っていたのですが、それは他の地域と比較していく中で、多いということですか。

○渡辺さん

(区長) 移住定住交流部門、人とまちづくりという部門がありまして、市と国から補助を受けて農業従事したい方を受け入れています。詳しくは菊地さんから。

○菊地さん

(集落支援委員) 東和地域は平成 7 年に福島国体があってカヌー競技を受け入れました。でも、宿泊する場所がないので、民泊を中心に受け入れました。で、その人たちが国体終わった後も農家民宿というか、他の人にも泊まってもらおうということでグリーンツーリズムに取り組みました。東和グリーン遊学という組織を東和町役場が中心になってつくられました。視察にも行って PR など色々なことを行いましたが、もっと安定して民泊に来てくれる人を受け入れたいということで国の農林水産省で提唱した農山漁村子供プロジェクト、子供が数泊して体験を行うというのに申請しました。そのためにはちゃんと宿泊業の資格を取らないといけないということで、農家民宿としても申請しました。今は 25 件くらいあります。農業後継者が減る中で、継続するために少ない数ではありますが、他からやってくれる人

を呼び込むしかないということで NPO 有機の里東和ふるさとづくり協議会というところが、呼び込むことに力を入れて取り組んでいます。移住相談会などでも声をかけて現地案内をして新規移住者を呼び込んでいます。そのため移住者が多いということでもあります。個人でそのような活動に携わっていて思いましたが、移住者が移住者を呼ぶのだなと思いました。他の移住者の方も同じようなことを言っていて、移住者がいることによって安心して移住してきてくれることができるということだと思いました。他の地域でも移住者を受け入れて欲しいと取り組みを行おうとしましたが、受け入れる方がなかなかうまくいかず、東和は受け入れる環境ができていると感じました。

●辛島

前年までいた豊橋から車で 1 時間くらい行ったところにある東栄町というところがありまして、そこも人口減少や転出の傾向が強くて移住者を増やす取り組みを行っていましたが、そこも移住者が移住者を呼ぶような状況ができて、地域は違うけど同じようなことが起きるのだと聞いて思いました。

○菊地さん

(集落支援委員)

追加で、震災の時の話ですが、茨城大学・農工大学・福島大学の先生が放射能と土の関係を研究したいということでやってきました。野菜には放射能は移行しないということを研究していました。そこで先生がゼミ生を連れてきて、震災で子供たちはなくなりましたが、農家民宿が賑わいました。その中で、新潟大学の野中先生と東京農業工業大学の横山先生が家族で東和地域に移住してきました。調査したくても受け入れてくれないと調査できないという話をしていました。

●辛島

聞きたいことが多くありますが、生活圏のお話で病院や学校などどのような場所に行っているかなど答えられる範囲でありましたらお願いします。

○渡辺さん

(区長)

今は東和には小中学校 1 つになってしまいました。ほとんどの人は、二本松市や福島市に車で買い物にいきます。仕事は、通える人は福島、郡山までは 30 分 1 時間で通えるので通っています。それ以上遠いと単身赴任です。人が減る要因としてやりたい仕事ができなくて地方に出てしまうことが多いです。病院は、二本松市総合病院とます記念病院が大きい病院です。東和地区には東和クリニックという診療所などがあります。福島市に紹介状もらって福島医大に行く人もいます。郡山にもあります。

ヒアリング調査 二回目 12/8

参加者 ○二本松市東和地区：渡辺さん（区長） 高野さん（副区長） 竹山さん（集落支援委員）
菊地さん（集落支援委員） 塚本さん
渡辺さんご夫妻（地域おこし協力隊）

●前橋工科大学：辛島

齋藤（4年） 金（4年） 小山（4年） 杉崎（4年） 杉本（4年）
谷口（3年） 前田（3年） 吉田（3年） 坂野（3年）

—挨拶（省略）—

●小山 今東和地区で生活していて不便に感じたり、不足しているなど感じたりするときはありますか。

○渡辺さん
（区長） 特に不便に感じることはないです。

○高野さん
（副区長） 別に大きく負担になることはないです。

○渡辺さん
（区長） この地区は比較的二本松市市役所（市街地）や福島市にも近いので買い物も15分くらいで買い物にも行けるし、高速に乗るにも15分～20分、駅にも15分、郡山の駅には40分くらいで（車で）行けるので特に遠いという感じはしません。

○塚本さん 特別不便は感じないですけど、まだ車に乗れているから車で行き来できるからです。年配の車に乗れない方はなかなか厳しくて、バスも分からないけどタクシーとかしなくて、あとは誰かに送ってもらうしかないの、そうなるとちょっと年配の方は不便を感じているかもしれないです。

○渡辺さん
（区長） 竹ノ内地区の人はこの三人です。前は、福島駅までの直通のバスもあったし、二本松までも直通でありました。今は、乗り換えをしないと直接駅までは行けない不便さがあります。針道の方は、菊地さんや渡辺さんたちが住んでいるので聞いてみますか。

●辛島 もしあればお願いします。

○竹山さん
（集落支援委員） 今現在は、特別不便なところはないですけど、東和地域木幡地区内では、高齢者の方は足がないということでタクシー走っていますけど、曜日が決まっている予約制。自分が思うような行動ができないと住民の方からは言われています。

●辛島 ちなみに曜日というのは週に何回くらいですか。

○竹山さん
（集落支援委員） 週2日です。

○菊地さん
（集落支援委員） 今いろいろなところに出ることができているので、不便さはないです。けれど、今後10年20年後、車の運転ができなくなったらどうしようというのはありますね。私以外の人の

ところでも近くにクリニックというのがありますが、病院となると二本松まで 20 分～30 分(車で) かけて行かないといけませんし、買い物も近くでできますが、別の者が欲しいときに高齢者の方は足がないです。バスの本数もあまりないですしね。公共交通機関を利用する人は少ないです。このあたりは二世帯三世帯で同居している方が多いので、乗せていってもらう人が多いと聞きます。あと、高齢者の世帯だと、年 1,2 回は大雪になるので、一人暮らしの方だと雪かきが大変だというのがあります。

○渡辺さん

(リョウマさん) 車がないと動きづらいというのはあると思います。あとは雪も、少なからず降りますし、地区内で坂道が多いのでそのようなところの雪かきが大変なのかなという印象はあります。

○渡辺さん

(区長) 会津に比べたら少ないでしょう。会津の若松市内。

●辛島

雪はどのくらい積もりますか。

○高野さん

(副区長) ここ最近少し降っても膝下くらいですかね。20 センチ前後ですね。私が子供の頃は膝上までは普通でした。ここ十数年は 15 センチ前後です。生活への影響はそこまでではないかなという感じです。

●辛島

わかりました。結構季節によって影響が出てきますね。

○竹山さん

(集落支援委員) 先ほども言っていますが、やっぱり高齢者は車の免許がないとか返納したとかが多いので、不便さを感じる人は多いと思います。公共交通機関がもっと密な運行をしていればいいのですが、難しいです。学校通うのにも、各家庭で送迎をしているので、公共交通機関は利用されていませんね。各家庭で車は必須です。

●辛島

ちなみに何台くらいありますか、各家庭で。

○高野さん

(副区長) 2.3 台は必須ですね。車の免許を取れば、必然的に車もついてきます。だから、子供さんが卒業して車の免許を取って、家族の多い家庭ですと 6.7 台という数になります。

○渡辺さん

(リョウマさん) 地区の草刈りってどうなっていますか。年に何回やっているということは決まっていますか。

○竹山さん

(集落支援委員) 今は全員参加の草刈りは、春(6月)と秋(9月)ですね。あとは各家庭で、手入れしていることが多いですね。

●辛島

草刈りの他には、地域の維持のために定期的に行っていることはありますか。

○渡辺さん

(区長) 都会では側溝上げなどがあると思いますが、ここの地域では水路整備があります。枯葉とかがあると詰まってしまうからね。あと、寄せ切りと言いますが、昔だと畑に木が覆い被さるため、木を切る作業があります。(春先に)今は、畑を作る人がいなくて切ることもないですが、道路にかかっている枯れ木が落ちるような場所の手入れをしています。県道とかですと、行政がやってくれます。あとは、クリーンアップ作戦という川の清掃を行ってしまし

たが、最近では中止になっています。コロナの関係です。

●杉崎

先ほど地区での活動をおっしゃっていましたが、行事とかお祭りはありますか。

○渡辺さん

(区長)

地区の行事はたくさんありました。最近では、全部中止になっていますが、地区で各班に神社があるのでそこでお祭りがあつてあります。神木会や交流を深めるための親睦会。お盆近くでは、集会所付近で盆踊りがあつたり、花火をあげたり、納涼祭を行つたりしています。

○高野さん

(副区長)

あとは、婦人部で正月月中旬から末に庚申様というので女性たちだけで集まつて、お祈りしたり、食事したりしながら話をするというのがあつてあります。今は変わつて順番で担当の人が、1箇所の食べられる場所で掛け軸を持って行つて行つて行くようになっています。養蚕が盛んだつたので火の神様などを祀つた行事があつてあります。

●杉崎

今のお話にも少し出ましたが、養蚕業って今も行われていますか。

○渡辺さん

(区長)

この地区ではあつていません。東和地区では、4件あつてあります。今は、桑の葉を何かに利用できないかということで、血糖値を下げるためのパウダーなどにして取り組みをしています。でも養蚕業は、中国から安い絹が入つてくるため、やめてしまう人が多かつたです。それでも質は日本の方がいいと思いますが、継続している人が減つてしまつていてる状態です。

●辛島

養蚕されていた方の建物は特徴があつてと思いますが、そういうのは地区に残つていますか。

○渡辺さん

(区長)

昔の建物でやると、自分の寝室までを作業場にしていたため、今は改装、改築しています。そのまま残している建物は2.3件あつてあります。

●辛島

空き家ですか。

○渡辺さん

(区長)

空き家もあつてあります。

○高野さん

(副区長)

自宅兼で養蚕業を行つていました。特別な建物作りが養蚕は必要ないので、自宅で行つていましたね。

○渡辺さん

(区長)

二階とか廊下はそのままの状態ですね。養蚕が終つてからはずっと客室などに使つていてる場合もあつてあります。昔の家は結婚式なども葬式も家で行うので、広くて続いている部屋があつてあります。

●齋藤

東和地区の自然の魅力について一つずつ教えていただきたいです。

○渡辺さん

(区長)

星が綺麗ですね。阿武隈川の中流なので、川も綺麗だとなおよかつたです。でも流れが穏やかだと上流の方まで見えるし、橋から見ると綺麗な風景です。あと、少し丘まで行けば、あだたら山とあずま山が一望できる風景、近所の点々としていてる山の風景。あとは日本人としては田んぼ、棚田の風景がいいと思います。

○高野さん

(副区長)

私が一番年間を通していいなと思う時期は秋です。紅葉です。自宅からも見えて、1日ごとに色の変化していくのを見て秋を感じられます。阿武隈川でも、落葉樹などもあるので、色づきが見られるのでいいなと思います。あとは、春、山桜が結構あります。あちこちの少しずつ花が咲いていくのが、綺麗です。

●辛島

私も山登りが趣味ですので、山なども気になりますし、自然の変化なども魅力に感じます。他の方もありましたら、ぜひお願いします。

○塚本さん

自分の家の裏山に行くと阿武隈川が見えて、今ですとあだたら山に雪景色が見えて、寒くなるなど感じます。岳温泉という温泉まで30分くらいで行けるので夕方から入りに行きます。350円を入れるので。結構顔馴染みに会いますね。東京に20年くらい行っていたことがありますが、住むとなるとやっぱり地元がいいですね。隣の家との距離が200mとか普通なので、音楽鳴らしても文句を言われないうちなどそういうところですかね。不便なところもありますが、今は感じていませんし、生まれ育ったところなので気に入っています。

○渡辺さん

(区長)

竹ノ内地区だと限られるので。竹ノ内地区の隣の中ノ内地区にある津島神社が結構高い所にあつて、そこから見える木幡山が有名です。木幡の幡祭りがあります。その神楽を10月の祭に行きます。その伝統的な行事です。元々竹ノ内地区というのは、外木幡地区に今なつて、学区が木幡地区に入りました。それまでは太田地区の方に入っていましたね。

●辛島

自然の魅力はこのような感じですかね。もっと何かあればお願いします。

○菊地さん

(集落支援委員)

東和地域に葉山という山がありまして、そこに登ると360°のパノラマが見えてすごく気持ちがいいです。あと、結構東和地域には限りませんが、各家庭で植えている花が綺麗です。季節ごとに大切に植えているので、歩いて回るだけでも心が和むかなと思います。山菜が撮れるのも魅力だと思います。里山なので、人と小動物が共存している、というのも魅力かなと思います。

○竹山さん

(集落支援委員)

集落回っていた中で、この地域に嫁いできた方に聞いて中では、夜空が綺麗というのが多かったです。あと、隣近所が離れていますので、喧嘩しても聞こえないというようなものがあります。一番多いのは、人間性がいいということが言われます。木幡地域には色々な行事もありますし、伝統を保つために子供さんが少なくて活動休止しているものがあります。

○渡辺さん

(フミコさん)

自然のいいところは、ほとんどみなさんがお話してくれましたが、星空が綺麗に見えるのが感動しました。あとは、動物に遭遇する確率が高いので、その驚きもありますが、里山ならではのと思っています。

○渡辺さん

(リョウマさん)

地区全体になりますが、あとは桜の名所が結構あります。桜の名所があるので、地域内でも色々みて回れます。

●辛島

その桜の名所というのは、結構他の地域からも見に来る人がいますか。

○渡辺さん

(リョウマさん) 外からもいらっしゃる方がいます。福島県では、一本桜番付という桜の名所の番付表があってその上位に二本松の桜がいくつも入っています。そういうのもあって他の地域から来る方も結構います。

○渡辺さん

(区長)

補足ですが、竹ノ内地区の下流に福島市飯野町がありますが、古くて枯れそうな桜が結構あります。昔はたくさんあって見に来る人もいました。今は少し残っています。東和のグラウンド近くにも桜を植えているなど、市でも力を入れて桜を植えています。あと、高林寺という場所がありまして、そこはアジサイ寺と言われるほど、アジサイを見に来るかたがたくさんいます。あとは、サルスベリの丘がありまして、一体に咲いています。クマガイ草の群生地もあります。竹ノ内地区となるとどうしても視野が狭くなってしまいますので、他も紹介しますね。福島市の花屋敷も斜面全体に植栽して綺麗な状態になっています。

●金

これからやりたいことや挑戦したいこと、やりたかったことなどがあれば教えてください。

○渡辺さん

(区長)

たくさんありすぎて、全て一人ではできないことなので実現することは難しいかもしれません。人がどんどん減ってきていて、昔は子供たちの声がたくさん聞こえましたが、最近は外で遊ぶ子供たちの声が聞こえない状態です。外で遊ぶスペースや働き場があって、子供たちも一緒に暮らせる場所にしていきたいと思っています。そのためには、この魅力をわかってもらってここでも仕事ができる状態にしないといけないので、現在里山の再生として林業にも取り組んでいます。シイタケ原木の再生を行っています。

○高野さん

(副区長)

花をつくっています。そのようなものを広げていって綺麗な花畑がくれたらいいなと思っています。そこでまた、雇用して人が集まってくればいいかなと思っています。先まで行けば、人が住んで子供ができて賑やかな集落となれば、理想です。交通に関してはそこまで不便がない地域だと思うので、少し手を加えていけば人が集まってくるかなと思います。でも何をしたらいいか分からないので、皆さんの力を借りたいというのが現状です。

○渡辺さん

(区長)

あと来ていませんが、東和牧場の経営者が来る予定でした。大きく牛を飼っているところがあります。塚本さん、やりたいことを実現に向けて行っているの、お願いします。

○塚本さん

今年は、庭でトマトを水耕栽培で育てました。その電源を太陽光パネルでつくって、塩ビパイプに穴を開けて、肥料を溶かして、水を循環させてアイコというトマトを作りました。今は、近くの畑や山を借りて太陽光発電の売電事業を行っています。余ったパネルでオフグリッド（電気を自分のところで賄う）を行いたいと思っています。リチウムイオンを使用しているとは思っていますが、まだ実現していません。バッテリーに溜まったものを電気にするものが日本では売っていないので、できていません。中国の通販サイトで購入して、今待っているところです。あともう一つ、竹藪が多いのでその竹の使い道を考えています。もっと竹を活用できれば、このまま放置しなくていいですからね。いい使い道がないので、考えています。何かあれば教えてください。

●辛島

竹の活用は、事例などを見ても何かあるかなと気になりますね。

- 塚本さん それが何か仕事につながる産業になればいいかなと思います。
- 竹山さん
(集落支援委員) 耕作放棄地が多い中で、どんどん竹が増えてしまっていますね。一年で成長してしまうので、地元では竹を何か活用できないかと思っています。竹細工にしてもそこまで使用しないです。今回ぜひ何かいい案があればお願いします。
- 菊地さん
(集落支援委員) 私は、東和の案内人になりたいと思っているので、歴史と人を含めもっと色々なことを知りたいと思っていますところです。
- 渡辺さん
(フミコさん) やりたいことは、まだ模索中です。地域おこし協力隊で移住させていただいて、任期後の生き方を考えている時期です。ざっくりと食事に関連する職業をしてきたので、地元の食材などを使って仕事に繋がらなと思っています。
- 渡辺さん
(リョウマさん) 協力隊後は農業をやりたいと思っています。今は農業も環境負荷があると言われていて、環境負荷がかからない方法をとってやりたいなと思っています。
- 谷口 地域おこし協力隊の渡辺さんに聞きたいのですが、地域との繋がりで嬉しかったことや大変だったことがあれば教えていただきたいです。あと、実際移住でどのくらい補助金を利用したか可能な範囲で教えてください。
- 渡辺さん
(リョウマさん) 地域のつながりとしては、地域おこし協力隊として入ってきたので他より地域の人と繋がりがあかなと思っています。東和支所や道の駅にいますのでつながりは広い方だと思っています。結構、お野菜などもいただいたり、玄関先に置いてあったりするので嬉しいです。少し距離が近すぎると感じるのは、朝7時に家に届け物きていただくのは、少し時間がはやいかと思っています。補助金ですと、協力隊で家賃補助（修繕費）があるなどして十分に賄えているので、他はわかりません。
- 渡辺さん
(フミコさん) 任期後、企業するのに上限100万で補助金があるので活用できたらなと思っています。
- 渡辺さん
(区長) 結構色々な補助が移住者に対してあると思います。
- 菊地さん
(集落支援委員) 県外から来た方への補助など（年齢などでプラス）あります。市内でもあります。移住者が家を建てた際にも補助が出ます。そのような補助があります。市の補助だけでなく、県の補助も使えますね。（空き家改修など）市や県の担当者に聞いてから移住することをお勧めします。
- 辛島 このような人に来て欲しいとかありますか。
- 菊地さん
(集落支援委員) 特にないです。二本松で自分のやってみたいことを実現したい方は大歓迎です。

1日目

2日目

①ウッディハウスとうわ
 ・ワークショップを行った
 (地図と照らしながら地元の方から話を聞く)



⑪元遊歩道の獣道
 ・元々遊歩道として利用されていたが、今は獣道になっている
 ・川の流がゆっくりで景色が川に映り綺麗。
 ・川でカヌーをやっていた



⑧空き家
 ・蔵付きの空き家
 (空き家になってから二年)

⑤集会所
 ・2日目朝の集合場所



④ワタナベさんの自宅
 ・地元酒(ワイナリーで購入したもの)を頂いた

⑥建築大臣賞の住宅
 ・外観の見学



⑦橋がかかっていた川
 ・新丹橋ができるまでは主要道路だった



⑨景色が綺麗なところ
 (杉の木が邪魔になっている)



⑩元桑畑の空き地

・ワタナベさんがキャンプ場にして活用したいと話していた



⑬ワイナリー

・施設も含め、地元の方達で一から作った場所 (7、8人で始めた)
・3年間は収入を得るのが難しい (ブドウの木を育てる、農薬不使用、動物たちに食べられてしまう)



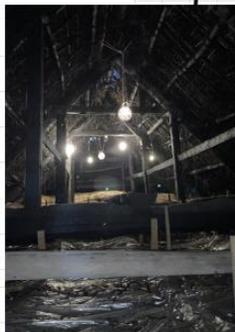
⑫神社

・幡祭りが行われている場所
・階段が急、途中に鐘がある
・大木がある
・三重塔もあった



⑭旧木幡第二小学校

・東日本大震災の時には、支援物資の貯蓄場所として使用されていた



②石垣島から移住してきた方の家 (地図上矢印の先)

・他地域からの移住についての話を聞いた



③道の駅 (閉店時間過ぎ)

・行事に使用されるホールの見学
・イルミネーションがあった



福島医大
だいたい集落から車で30分

総合病院は二本松市へ

生活圏郵便局 4つ

●菅野学さん
自然を生かした集客場所が欲しい
(公園、キャンプ場、農業体験等)

●渡辺正栄さん
棚田を残したい
キャンプ場を作りたい
(オートキャンプ)

●菅野幸子さん
憩いの場が欲しい
景色を見ながら休憩できるカフェが欲しい
コンビニが欲しい

●菅野寿市さん
働ける場を増やしたい

●渡辺美晴さん
カヌー人口が多くなるといい
コロナがなくなるといい

●
子供たちの声が聞こえるような賑わい
があるといい

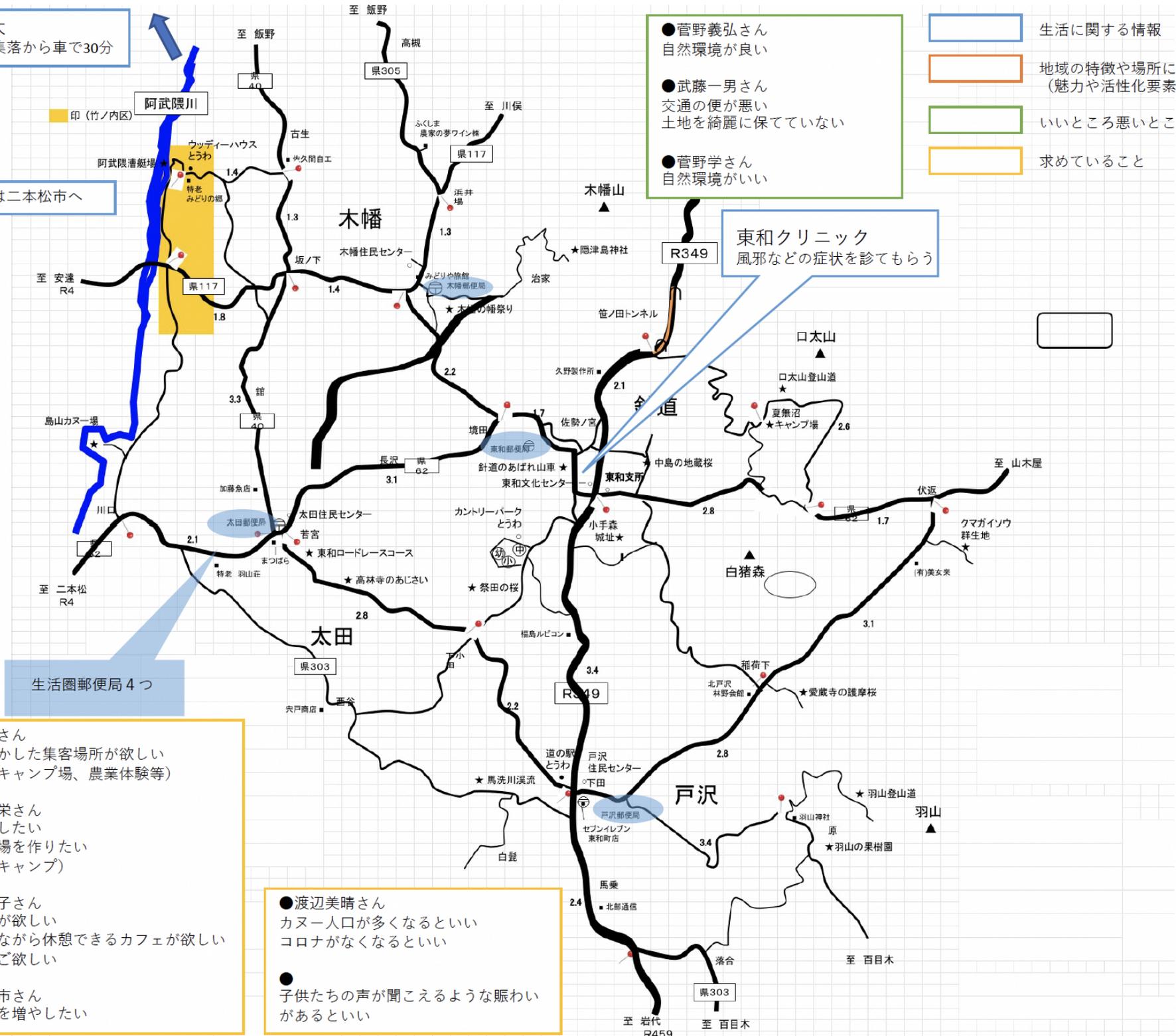
- 菅野義弘さん
自然環境が良い
- 武藤一男さん
交通の便が悪い
土地を綺麗に保てていない
- 菅野学さん
自然環境がいい

生活に関する情報

地域の特徴や場所に関する情報
(魅力や活性化要素に繋がりそう)

いいところ悪いところ

求めていること



東和クリニック
風邪などの症状を診てもらおう

阿武隈川
ウッディーハウス
とうわ
特老
みどりの郷

島山カヌー場
川口
加藤魚店
水田郵便局
特老 羽山荘
まつばら

太田
本田住民センター
若宮
東和ロードレースコース
高林寺のあじさい
祭田の桜
福島ルビコン
下小田

戸沢
戸沢住民センター
戸沢郵便局
セブンイレブン
東和町店
馬乗
北部通信
落合

東和支所
東和文化センター
針道のあばれ山車
東和郵便局
境田
久野製作所
佐勢ノ宮
中島の地藏桜
白猪森
稲荷下
北戸沢
林野会館
愛蔵寺の護摩桜

羽山
羽山登山道
羽山神社
原
羽山の果樹園

木幡
木幡住民センター
坂ノ下
みどりの旅館
木幡郵便局
★木幡の稲祭り
治家
★隠津島神社
菅ノ田トンネル
久野製作所
2.1
2.2
2.3
2.4
2.5
2.6
2.7
2.8
2.9
2.10
2.11
2.12
2.13
2.14
2.15
2.16
2.17
2.18
2.19
2.20
2.21
2.22
2.23
2.24
2.25
2.26
2.27
2.28
2.29
2.30
2.31
2.32
2.33
2.34
2.35
2.36
2.37
2.38
2.39
2.40
2.41
2.42
2.43
2.44
2.45
2.46
2.47
2.48
2.49
2.50
2.51
2.52
2.53
2.54
2.55
2.56
2.57
2.58
2.59
2.60
2.61
2.62
2.63
2.64
2.65
2.66
2.67
2.68
2.69
2.70
2.71
2.72
2.73
2.74
2.75
2.76
2.77
2.78
2.79
2.80
2.81
2.82
2.83
2.84
2.85
2.86
2.87
2.88
2.89
2.90
2.91
2.92
2.93
2.94
2.95
2.96
2.97
2.98
2.99
3.00
3.01
3.02
3.03
3.04
3.05
3.06
3.07
3.08
3.09
3.10
3.11
3.12
3.13
3.14
3.15
3.16
3.17
3.18
3.19
3.20
3.21
3.22
3.23
3.24
3.25
3.26
3.27
3.28
3.29
3.30
3.31
3.32
3.33
3.34
3.35
3.36
3.37
3.38
3.39
3.40
3.41
3.42
3.43
3.44
3.45
3.46
3.47
3.48
3.49
3.50
3.51
3.52
3.53
3.54
3.55
3.56
3.57
3.58
3.59
3.60
3.61
3.62
3.63
3.64
3.65
3.66
3.67
3.68
3.69
3.70
3.71
3.72
3.73
3.74
3.75
3.76
3.77
3.78
3.79
3.80
3.81
3.82
3.83
3.84
3.85
3.86
3.87
3.88
3.89
3.90
3.91
3.92
3.93
3.94
3.95
3.96
3.97
3.98
3.99
4.00

和牛 (A5の12) 600頭

阿武隈川
昔は遊覧船があった
(船舶免許所持者数人あり)
冬は川が凍る、川沿いに紅葉

福島団体カヌーの会場
阿武隈ソクラティー場

三十三観音 岩蔵寺
大きな山に33体の観音様

カントリーハウス
グラウンドが貸し出して
使用できる

白髭宿
馬に塩を引かせる宿場町

大大神楽
後継者がいなくて東和では
もう行われていない

高林寺
アジサイ、サルズベリ
クマガイ草

針道
イノシシ、猿、たぬき、イタチ
ホタル、小動物の宝庫

三大幡祭り
隠津島神社 (三重塔本殿)
山一休の神社
森林浴

世界チャンピオン重量あげ
(60歳以上) 大内俊幸さん

あばれ山車
山車同士をぶつけ合う
(400年の歴史がある)

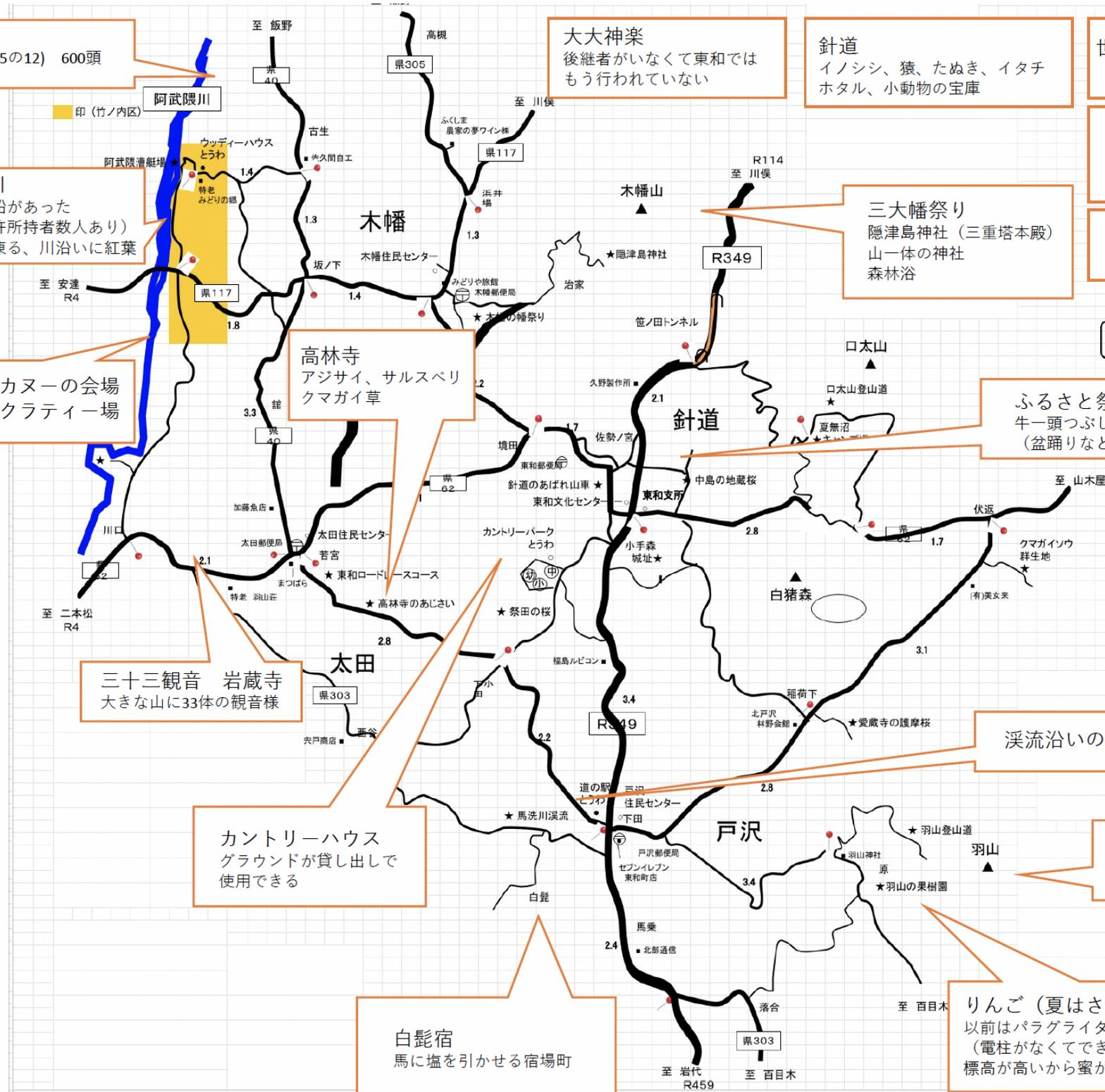
和牛 (Aの4)
きぬの里 4号沿い 二本松市

ふるさと祭り
牛一頭つぶして皆で食べる
(盆踊りなどもある)

溪流沿いの紅葉 (秋)

羽山のパノラマ
(360°) 800m

りんご (夏はさくらんぼ)
以前はパラグライダー
(電柱がなくてできる)
標高が高いから蜜が締まって美味しい



東和の魅力

- ①豊かな自然と地元で作っている野菜、以前から続く豊かな暮らしがある
- ②それを受け継ぎながら自分たちも地域の中で繋がりながら楽しく暮らしていきたい(他地域から来てくれる人大歓迎)
- ③そのために誰でも入ってきやすい交流のできるまちでありたい

遊歩道 (川沿い)

民宿
農業体験あり

田んぼの棚田
あだたら山を背景に

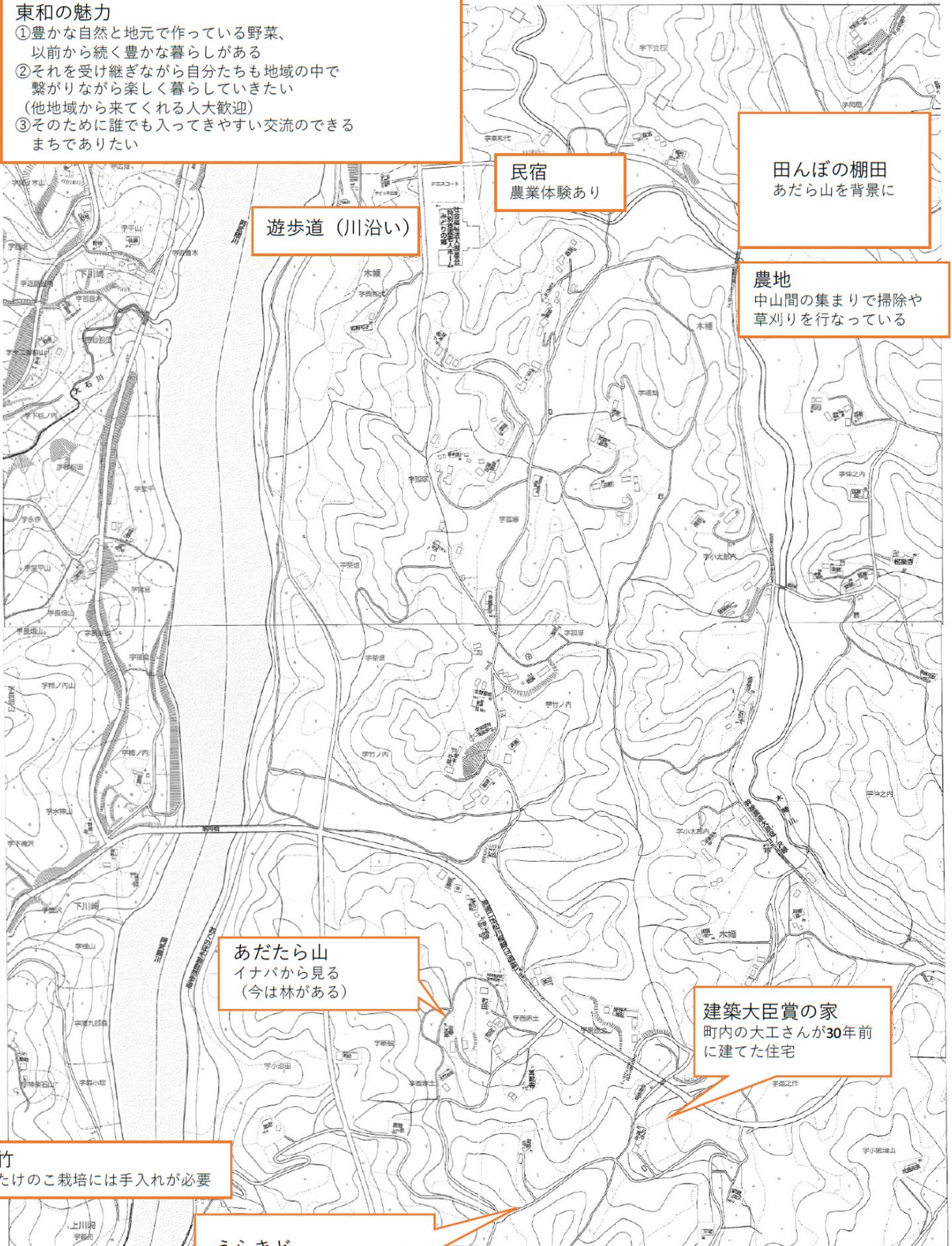
農地
中山間の集まりで掃除や
草刈りを行なっている

あだたら山
イナバから見る
(今は林がある)

建築大臣賞の家
町内の大工さんが30年前
に建てた住宅

竹
たけのこ栽培には手入れが必要

うらきど
山と同じ景色が道から見える



資料：空き家等の利用に関する事例集

サテライトオフィス 事例

■えんがわオフィス（徳島県神山町）（古民家を改修）

東京に本社を置く番組情報の編集・配信会社のプラットイーズは、かねてから災害などのいざという非常時に備えて、本社機能を分散しようと考えていたことがサテライトオフィス設置の動機となっている。

オフィスは築 90 年の古民家を改修したものである。その外観は漆黒に塗られ、一見するとオフィスには見えない瀟洒なつくりとなっている。1 階は全面ガラス張りになっており、その四方には縁側が飛び出しているため「えんがわオフィス」と呼ばれている。

プラットイーズは、このサテライトオフィス開設前に、4K/8K 映像のコンテンツを制作する新会社として、「えんがわ」を設立し、ここに本社を置いた。さらにプラットイーズとえんがわは、神山町で人材採用を始め、地元雇用の受け皿にもなっている。現在、両社で 23 名が働いているが、町内の在住者は 13 人もいるそう。

■神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス（徳島県神山町）（縫製工場を改修）

IT スタートアップの誘致を加速させる目的で、2013 年に NPO 法人のグリーンバレーが音頭をとり、以前縫製工場だった工場が、コワーキングが可能なインキュベーション施設（以下、コンプレックス）に改修された。サテライトオフィスに興味があっても、いきなり神山に来る決断ができる企業はそう多くはないだろうと考え、コンプレックスをお試しで使ってもらい、まずは手ごたえを感じてもらおうための施設である。

この施設は 619 m²という広さを活かし、イベントなどが行える多目的コワーキングスペースや、テレビ会議が可能な会議室、専用の打合せスペース、共同のキッチンやシャワールームなどが備えられている。

また 2016 年には、レーザーカッターや 3D プリンター、電子ミシンなどの最新デジタル工作機械を導入したファブラボの「神山メーカースペース」もコンプレックス内に併設された。入居している企業だけでなく、地元の小・中・高校の生徒などがモノづくりを楽しむことも可能である。

<https://wirelesswire.jp/2019/10/72412/>（2022/02/06 取得）

■先駆地としてサテライトオフィスを誘致（和歌山県白浜町）（古民家を改修）

白浜町は、地方型サテライトオフィス設置の先駆的エリアであり、2019 年 9 月時点で株式会社セールスフォース・ドットコム、NEC ソリューションイノベータ株式会社をはじめとする 14 社が、町が運営する施設内にサテライトオフィスを設置している¹⁾。首都圏の企業から評価されている点としては、空港が立地し、東京から 90 分程度で訪れられる点、Wi-Fi が無料で開放されている点などが挙げられている²⁾。また、ストレスのない環境として景色や静けさなどの評価も高い。誘致企業に対して地元の行事に参加をしてもらい、移住者に対しては生活に必要な地元の情報を発信するアプリの開発など様々な点でサポートを行っている³⁾。

<https://www.workersresort.com/jp/facility/local-satellite-office/>

<https://telework.soumu.go.jp/cont1-shirahama/>

■お試しサテライトオフィス（福井県鯖江市）（空き家を改修）

鯖江市はお試しサテライトオフィスとして、市内の中心部の空き家を利用した市街部オフィスと、中心部から離れた自然のなかにある山間部オフィスを用意し、企業の要望にあわせて貸し出している。

鯖江市内には約1000軒の空き家があると見られており、これらの空き家を有効活用することで、多くの企業が利用できるようにする。「鯖江市は、めがね、繊維、漆器という3つの産業を持ち、4番目の産業としてITのまちづくりに取り組んでいる。全国に先駆けて、行政情報のオープンデータ化に取り組むなど、高い関心を集めており、鯖江市の認知度は71.3%と高く、2014年に比べても7.6ポイントも上昇している。こうした成果が、サテライトオフィス事業の募集にもプラスに働いている」とした。

市街部オフィスだけでなく、山間部オフィスにおいても、光回線が到達しており、安定した高速ネットワーク環境を整備している点も、サテライトオフィスを利用する企業にとってはプラスになっている。

鯖江市では、サテライトオフィス事業を通じて、「空き家、空き室」問題への対応のほか、進出企業と市内企業との新たなビジネスマッチングの創出、進出企業による雇用促進および人材確保を期待しているという。

<https://japan.zdnet.com/article/35103942/>

■sansan 株式会社（徳島県神山町）（古民家を改修）

設立年：2007年（sansan）、2010年（サテライトオフィス） 従業員数：928人²⁾

業種：働き方を変えるDXサービス（クラウド名刺管理サービス等）の企画・開発・販売

企業がサテライトやワーケーション導入に必要な条件：古民家の改修、豊かな自然、高速インターネット回線

導入効果：古民家の活用をすることでテレワークの新たな可能性を示した。東京に本社を持つ企業でもネット環境、子育て中の社員サポート等の支援体制を整備すれば全くかかわりがなかった地方でも事業を展開できることを証明した。

オフィス概要³⁾

木造、地上2階建て（古民家改修）、諸室として、オフィスとしてミーティングルーム、ワークスペース、オフィス、生活スペースとして、キッチン、ダイニング、トイレ、風呂、寝室で構成されている。

・行政や地域の視点

支援内容...神山町IoT推進ラボ、IoTを活用して行政、企業、地域プレイヤーの連携を実現し、新たなビジネスの創出⁶⁾

・その他

サテライトオフィス設置に当たりオフィスとなる古民家の改修が行われた。この改修にはshushi architects⁴⁾が設計を担当した。この設計事務所が設計を担当したことでsansanのサテ

ライトオフィス事業がメディアや雑誌を通じて注目を集めた経緯がある。

本事例ではサテライトオフィス設置に当たりすでに神山町にあった NPO 法人グリーンバレー⁵⁾があったことが要因としてある。企業にとっても地域おこしの土壌が育まれている土地のほうがサテライトオフィスの検討がしやすい。

参考

- 1) sansanHP“ニュース” https://jp.corp-sansan.com/news/2013/130116_2712.html 2022・2・7
- 2) sansanHP“数字で見る sansan” <https://jp.corp-sansan.com/newgrads/data> 2022・2・7
- 3) 新建築 2015・11、p106.2020・1、p96 より
- 4) sushi architectsHP <https://shushi.tokyo/> 2022・2・7
- 5) 徳島県神山町でまちづくりを行う NPO 法人
グリーンバレージャーナル HP <https://www.in-kamiyama.jp/npo-gv/> 2022・2・7
- 6) <https://local-iot-lab.ipa.go.jp/article/kamiyama-town-iot-1809071400.html>
2022・2・7

ワーケーション 実例

■神戸市×株式会社タイミーの神戸のワーケーション

神戸市でのワーケーションの魅力は豊かな自然を持ちながらも都心部に近いという立地にある。泊まれる森のシェアオフィスは コワーキングスペースとレンタルオフィス機能を兼ね備えており、宿泊可能な交流拠点となっている。この取り組みの特異な点はワーケーション希望者と市内の事業者とマッチングを行い副業、兼業を元に、地域の企業を盛り上げていく作用をもたらしている点にある。

<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/47668/20211013.pdf>

■富士通株式会社（和歌山県）

名称：富士通株式会社¹⁾ 設立年：1935年 従業員数：126,400人

業種：テクノロジーソリューション²⁾：企業の経営課題を解決するため、様々なクラウドサービスや IT 商品を提供し企業の DX 推進を支援、ユビキタスソリューション³⁾：いつでも、どこでも、意識せずに情報通信技術を利用できること、デバイスソリューション⁴⁾：先進的製品開発や事業戦略のためのシステム開発などにおいて様々なデバイスを活用する。

企業がサテライトやワーケーション導入に必要な条件⁵⁾

対象自治体がワーケーション推進に取り組むにあたって得た地域資源や企業コラボレーションのノウハウを保有している事。地域課題を解決するにあたって富士通が持つ技術を生かせる事。導入効果⁶⁾：ワーケーション推進による関係人口の創出、多様な知見・スキルを活用した地域課題の解決、遠隔勤務を活用した転職なき移住による地方創生

行政や地域の視点

支援内容：今まで行ってきたワーケーション事業で得たノウハウの提供。従業員の現地での体験や交流を通じた新たな知見の獲得を目的に、「サステナブルエコツーリズム」（観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、観光地の開発やサービスのあり方を見定め旅行の設定を行うこと）をテーマにしたワーケーションプログラムをトライアル実施し、共同で効果測定やプログラムの改善を行う。

参考

- 1) 富士通 HP, <https://www.fujitsu.com/jp/about/facts/index.html> (2022・2・8)
- 2) https://www.mercury-group.co.jp/business/technology_solution/ (2022・2・8)
- 3) <https://www.ntt.com/bizon/glossary/j-y/ubiquitous.html> (2022・2・8)
- 4) <https://www.odp.co.jp/solution/device.html> 2022・2・8
- 5) ワーケーション実践ガイド“ワーケーション誘致の事例集”
<https://www.travelvoice.jp/workation/20211018-3972/> 2022・2・8
- 6) 富士通 HP, “和歌山県と富士通株式会社とのワーケーション・移住協定の締結について”
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2021/10/15.html> 2022・2・8

その他の事例

■ 新しい働き方を体験できる滞在拠点とインキュベーション施設（徳島県神山町）（古民家を改修）

えんがわを設立したプラットイーズは、さらなる試みとして、サテライトオフィスやテレワークに興味のある企業向けに、新しい働き方を体験できる滞在拠点になる宿もつくることにした。それが2015年7月にオープンした「WEEK 神山」である。

神山町の滞在拠点になる宿「WEEK 神山」の母屋にあたるフロント・食堂棟。横に2階建ての宿泊棟があり、一泊7500円から宿泊できる。

このWEEK 神山を運営する別会社の「神山神領」は、発起人のプラットイーズだけでなく、神山の住人や町、団体なども出資していることが重要なポイントだ。つまり神山町に拠点を置いた企業が、地元住民と共に町の将来につながる施設を作りあげたのだ。

WEEK 神山は、古民家を利用した母屋のフロント・食堂棟と、2階建ての宿泊棟で構成される。特に宿泊棟（全8室、最大24名、7500円～）の2Fから眺める鮎喰川の眺めは本当に最高だ。清流のせせらぎや里山の四季を身体で感じながら、全国から神山に視察や研修に来た人々がリラックスして寛げる宿泊施設になっている。

■ Cafe オリジン（徳島県石井町）（古民家を改修）

石井町ののどかな農地が広がる地域に、突如現れる立派な古民家。令和元年10月1日にオープンしたばかり。平日の閉店間際にもかかわらず、ご家族連れやお友達同士のグループが多数来店され、にぎわっている。

5年ほど前まで大家さんがお住まいだったため、老朽化は少なく水回りのリフォームなどもされている。空き家判定士に調査を頼んだところ、状態は良好だったとのこと。壁と床を直したくらいでありお金はかけず、できることはご自身で改修した。一番お金がかかったのは、浄化槽の入れ替えとのこと。住宅と違い、不特定多数の人が訪れる店舗などでは必要とされる性能が高くなるため、入れ替えは必須だった。そのため中川さんも想定外の出費だった。1000万円ほどのリフォーム費用のうち、ほとんどが浄化槽にかかった費用であった。下水道が整備されていない地域で店舗などへの空き家の利活用を考えている方は、注意が必要な点である。

（下水道の整備状況は、物件の所在地である市町村役場に尋ねると教えてもらえる。）

カフェとしてだけではなく、老若男女いろいろな人が交流できる場にしていきたいと語る。大家さんがお住まいの頃から近所の方が集う場所だったため、今も地元の方々がたくさん訪れてくれている。今後は、硬筆教室や、2階をギャラリーにするなど予定してる。

<https://www.tokushima-akiya.jp/rikatsuyo/空き家利活用事例⑧「cafe オリジン」/>

■ すみはじめ住宅「西分の家」共有サロンのあるシェアハウス（徳島県神山町）（空き家を改修）

「西分の家」は単身者や、小さな子どもがいる家族が暮らすことのできる、シェア型の「すみはじめ住宅」、この家に暮らしながら、徳島や神山での仕事を試みながら、借りられる家を見つけ手を入れてゆく間の居場所として位置づけられており、1階共有サロンに集うまちの人との交流を通じ、神山での暮らしの広がりが期待できる。

こんな方にオススメ

- ・人が集まる空間を楽しみたい
- ・シェアして暮らしたい
- ・住みびらきに関心がある

入居スペース

共有スペース

1階には、土間続きの共有キッチン。皆で料理をして食事を囲む楽しみも生まれる。食卓の向かいには、まちの人も使える共有サロン。まちに開かれた住まいは「西分の家」の特徴のひとつ。食事会や集会、ワークショップなどにも活用されている。

「西分の家」物件情報

- ・契約期間 3ヶ月～1年半（条件付きで、1回まで契約更新可）
- ・家賃 20,000円～
- ・共益費 4～9月：8,000円、10～3月：10,000円

*1人あたり月額算出（インターネット、電気、水道、ガス、浄化槽清掃を含む）

- ・備品 冷蔵庫、オープンレンジ、炊飯器、洗濯機、掃除機、調理器具、食器、エアコン

共有サロン詳細

<予約ができる時間帯>

火水木日祝 9:00～18:00 金土 9:00～21:00

*月は休館日、いずれも準備・撤収時間を含む

<利用料金>

1. 町内料金（利用責任者が町内在住・在勤・在学の方）

共有サロンのみ：30分あたり100円

3時間利用：500円

2. 町外料金

共有サロンのみ：30分あたり500円

3. その他設備の利用（1回あたり）

共有キッチン：500円

プロジェクター：500円

- ・築年月 1961年
- ・改装年月 2017年6月
- ・設計監理 株式会社ココロエ 一級建築士事務所
- ・施工 荒井工務店
- ・事業主 一般社団法人神山つなぐ公社/民家改修プロジェクト

参考文献

<https://www.in-kamiyama.jp/living/nishibun-salon/> (2022/02/06 取得)

■福岡市志賀島

福岡市近郊の志賀島では、若者と地域住民、民間企業、支援機関、自治体が一体となった地域開発の取組が進んでいる。

志賀島の活性化に立ち上がったのは、福岡市に本社を置くカラクリワークス（株）の若い有志で、同社は IT 企業でありながら、市の条例改正による土地利用の制限緩和を機に、空き家を改装したレンタサイクルとカフェを兼ね備えた「シカシマサイクル」というショップ事業を平成 26 年から始めた。その後、彼らは商工会や自治体の支援を受けながら、地域住民への空き家活用に関する説明会を開催し、空き家を賃貸物件として登録する「空き家バンク事業」を立ち上げ、志賀島への移住・店舗開業の基盤を整備していく。平成 28 年からは、空き家バンク登録物件を実際に内覧できる「みちきり貸家ツアー」を毎月開催、物件の特徴や入居後の流れ、改装に係る支援体制などを説明し、移住・開業希望者をサポートしている。現在では、1 階をカレーショップや雑貨店とし、2 階を住居として空き家を改装した住宅に、若者たちが少しずつ移住を始めている。また地域住民も、この活動呼応したように、地域の物産や工芸などを使ったイベントを催すなど、地域コミュニティが盛り上がりつつある。

志賀島の事例の特徴は、まずキーマンとなった若者たちが志賀島の価値を認識して、志賀島に賑わいを取り戻したいと考えたこと、そこにあったのが空き家という地域資源であったこと、その空き家を活用する活動に地域住民が共感できたことではないか。このような若者による地域活動の事例は、徳島県の神山町や高知県の土佐山地域でも見られる。

地域の再生、活性化には、地域コミュニティが創生あるいは再生することが必要で、そのきっかけとして、空き家や空き店舗という地域資源の再活用がある。そもそも、地域社会が衰退した原因は、少子高齢化や都市部への人口移動によって人口が減少し、地域の経済基盤や生活基盤を活性化する地域コミュニティが弱体化したことによる。限界が見え始めた地域社会を立て直そうと、地域住民が問題意識を強くし、地域コミュニティを再形成することで、地域社会の再生が見えてくるのではないか。

<https://www.daiwahouse.co.jp/tochikatsu/souken/business/column/clm38-5.html>

■ドイツ ライプツィヒ

当時のライプツィヒの不動産市場は完全に破綻していて、空き家をリノベーションして活用したところで投資回収することは到底不可能な状態だった。ならば空き家を取り壊し、緑地にすることで周囲の住環境を向上させようと考えられたが、中心市街地にある空き家の多くは築 100 年以上といったものが多く、歴史的な価値はとて高かった。建てられてから 100 年以上も街と一緒に歴史を刻んできた建物は、街のアイデンティティの一つと言える。このままでは街のアイデンティティまで破壊されてしまう、という危機感を感じた市民たちが不動産市場から見放された建物を活用し救うべく 2004 年に立ち上がった団体がハウスハルテン。2004 年秋、衰退にあえぐライプツィヒの一地区であったリンデナウで「ハウスハルテン」が設立された。地元の住民団体「リンデナウ地区協会」のメンバーが中心となり、有志の市民、行政職員、建築家らが立ち上げに参加した。

ハウスハルテンは空き家所有者と使用者との間に入り、双方のメリットをうまく仲介しながら

「使用による保全」というコンセプトを体現している。ハウスハルテンのプログラムの一つである「家守の家」において使用者は家守として家を使うことで守っていく役割を担う。使用者に原状回復義務はなく、好きなように空間を改変することができる。ただし、ハウスハルテンと使用者(家守)との契約は通常の賃貸借契約ではなく使用貸借契約なので、建物が損害を受けた場合、修繕の責任は全て使用者が負う。「ハウスハルテン」の最大の特徴は、空間を誰かに使ってもらうことで最低限のメンテナンスをしてもらうという「使用による保全」をコンセプトとしていること。2005年に始まった「家守の家」は、通常5~10年の期限付きで空き家の暫定利用を促す「ハウスハルテン」を代表するプログラム。所有者は、使用者に居ってもらうことで建物の維持管理費を免れ、さらに自己負担なしで建物の最低限のメンテナンスと建物への破壊行為を未然に防ぐことができる。一方使用者である「家守」は、原則家賃負担なしで、自分たちの活動や生活に使える自由な空間を得ることができる。このように、「家守の家」は所有者と使用者の双方にメリットのあるプログラムである。

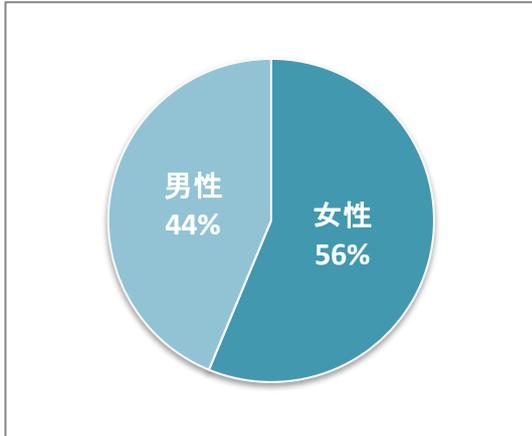
ハウスハルテンの設立目的は”100年以上前に建てられた歴史的価値のある空き家を破壊や劣化から守ること”だった。しかし、”安価で自由に使用・活動できる空き空間を斡旋してくれる”と認知されてきたことで若者や芸術家を中心に活用の担い手が集まってきている。ハウスハルテンが扱う物件は原状回復義務がないセルフリノベーションが可能なものばかりである。また、セルフリノベーションをサポートする体制が整っている。通常の賃貸物件では現状復帰義務があり、使い手が自分たちの好きなように改装する自由は限られている。しかし「ハウスハルテン」が仲介する物件は、自分たちで必要な空間をつくるセルフリノベーションが原則で、現状復帰義務もない。しかも空間づくりに必要な電動ノコギリ、インパクト、脚立、電源ドラムなどあらゆる工具を無償で貸し出していて、水道や電気工事のノウハウもハウスハルテンのメンバーである元職人から伝授してもらえる。ハウスハルテンは新たな活動を始めたい人々に、家賃が殆どかからず自由に使える空間と工具を提供し、活動のスタートアップを強力にサポートしている。

<https://madcity.jp/househaruten/>

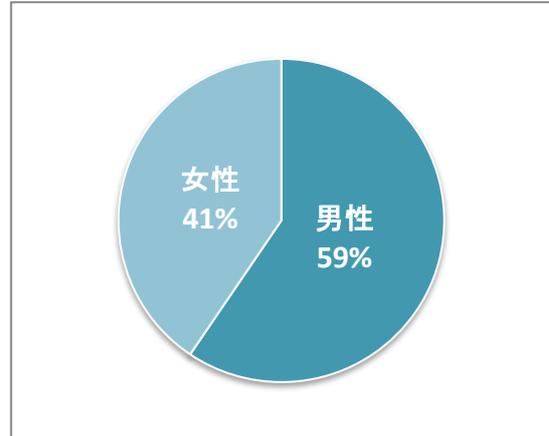
「集落づくりアンケート」集計結果(東和中2年生・3年生)

問1 あなたの性別を教えてください。

2年生

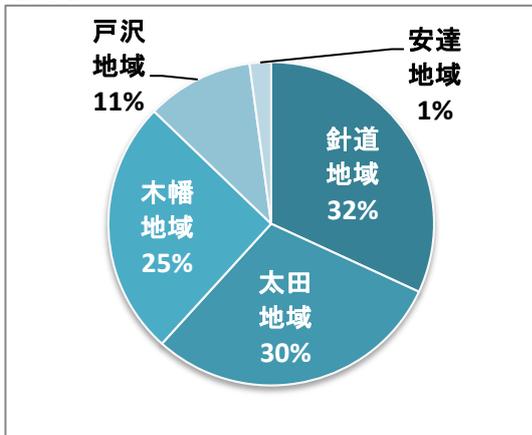


3年生

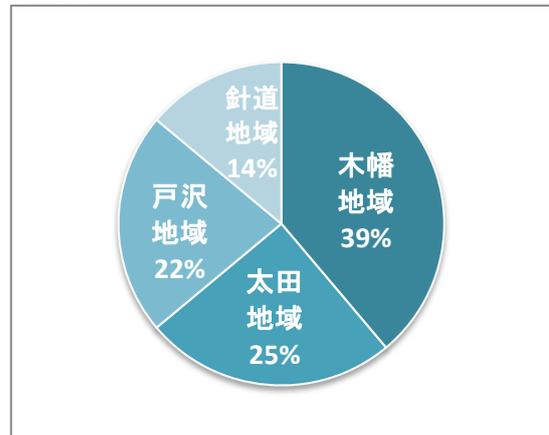


問2 あなたのお住まいはどの地域ですか。

2年生

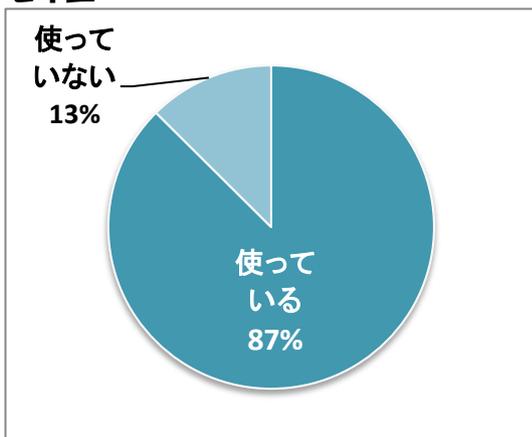


3年生

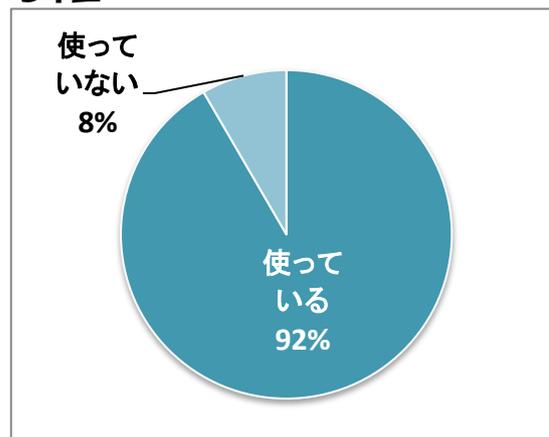


問3 あなたは、インターネットや電子メールを使っていますか。

2年生



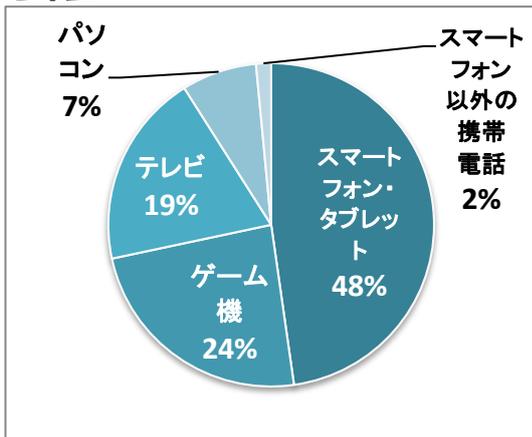
3年生



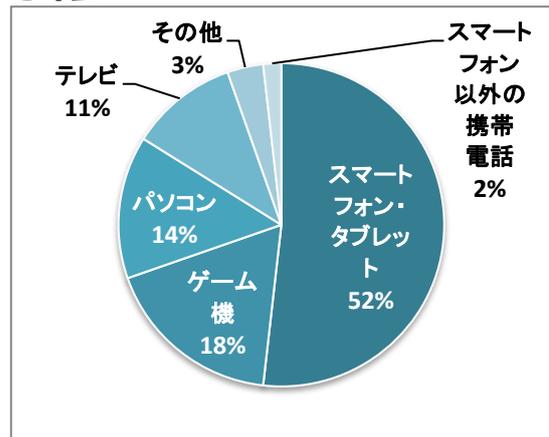
(問3で「使っている」と答えた方のみ)

問3-2 主な使用機器は何ですか。(複数回答可)

2年生



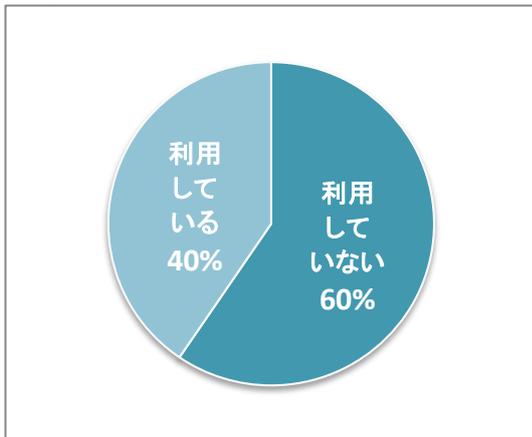
3年生



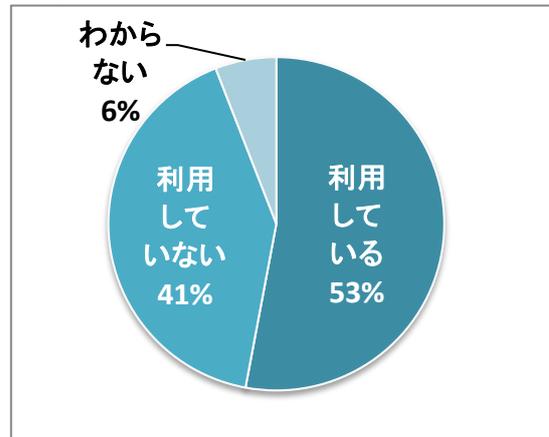
(問3で「使っている」と答えた方のみ)

問3-3 あなたは、SNSを利用していますか。

2年生

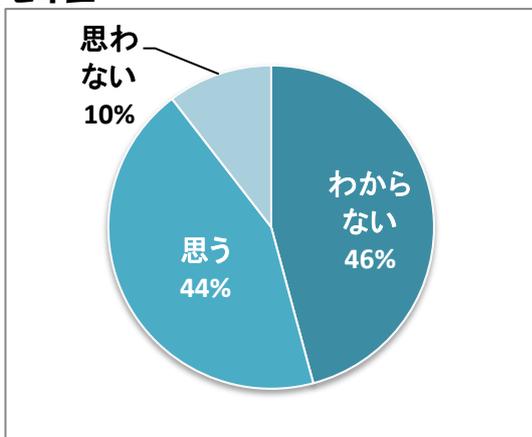


3年生

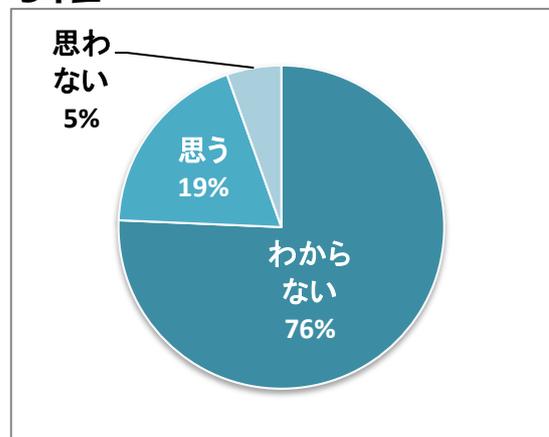


問4 あなたは、地域・集落運営に女性や若者の声をもっと反映されるべきだと思いますか。

2年生

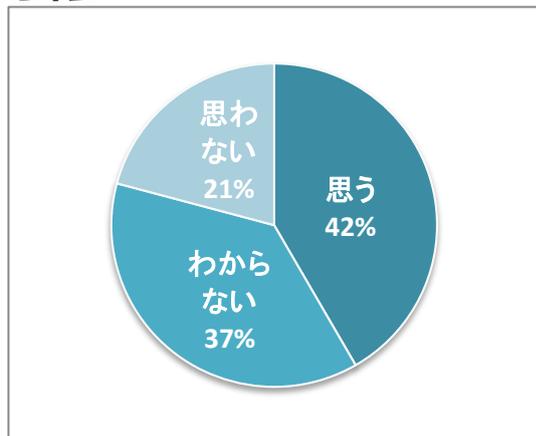


3年生

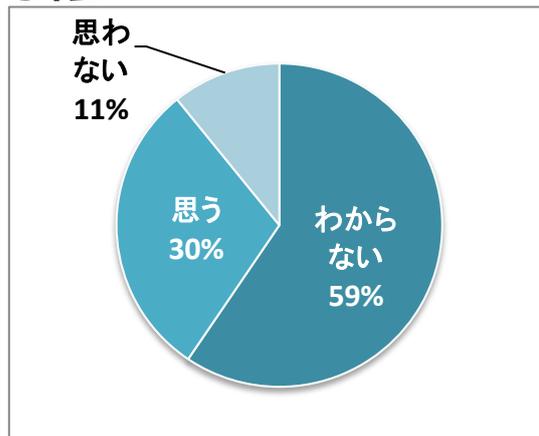


問5 あなたは、他の地域・集落との交流を行っていきたいと思いますか。

2年生

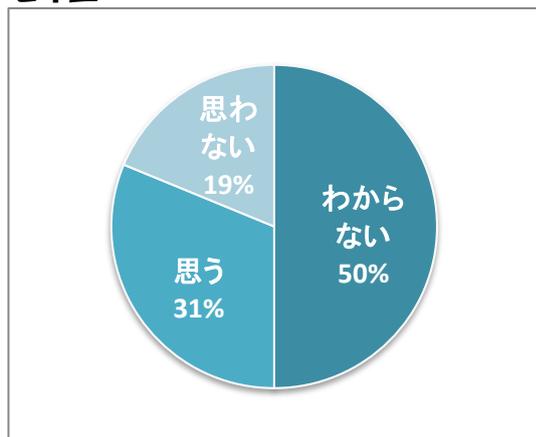


3年生

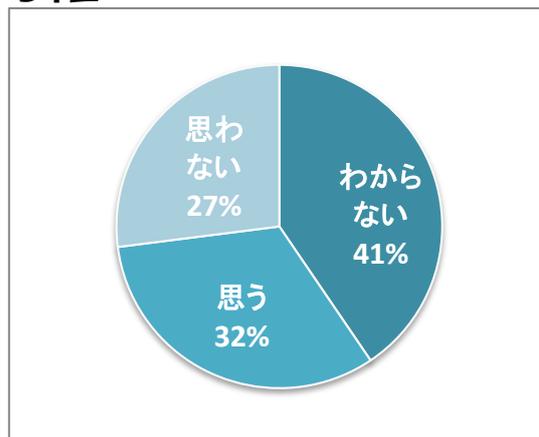


問6 あなたは、今後もこの地域・集落に住み続けたいと思いますか。

2年生

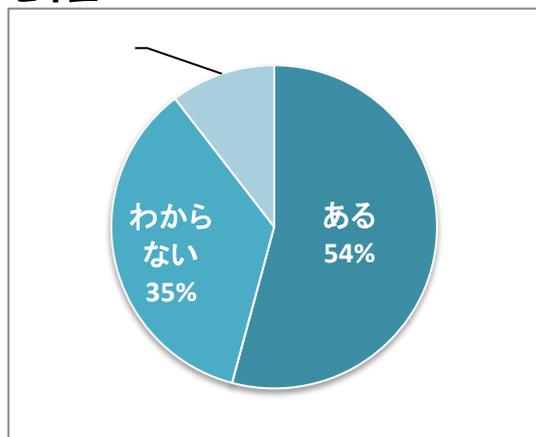


3年生

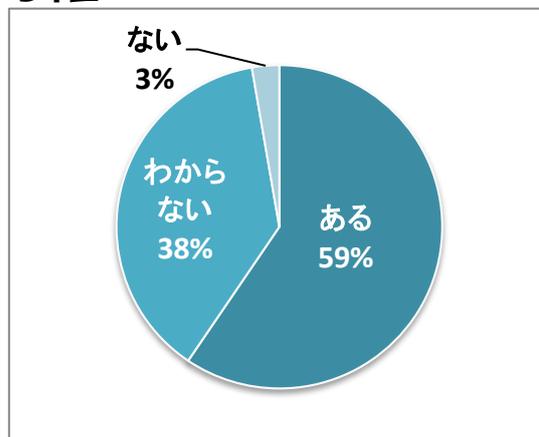


問7 あなたは、この地域・集落に愛着がありますか。

2年生

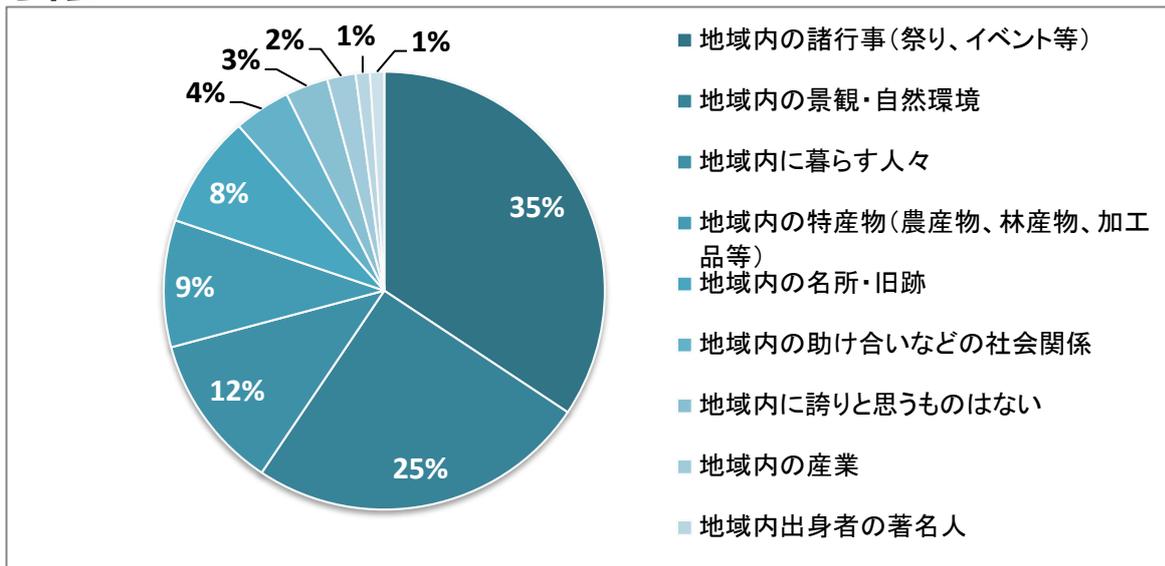


3年生



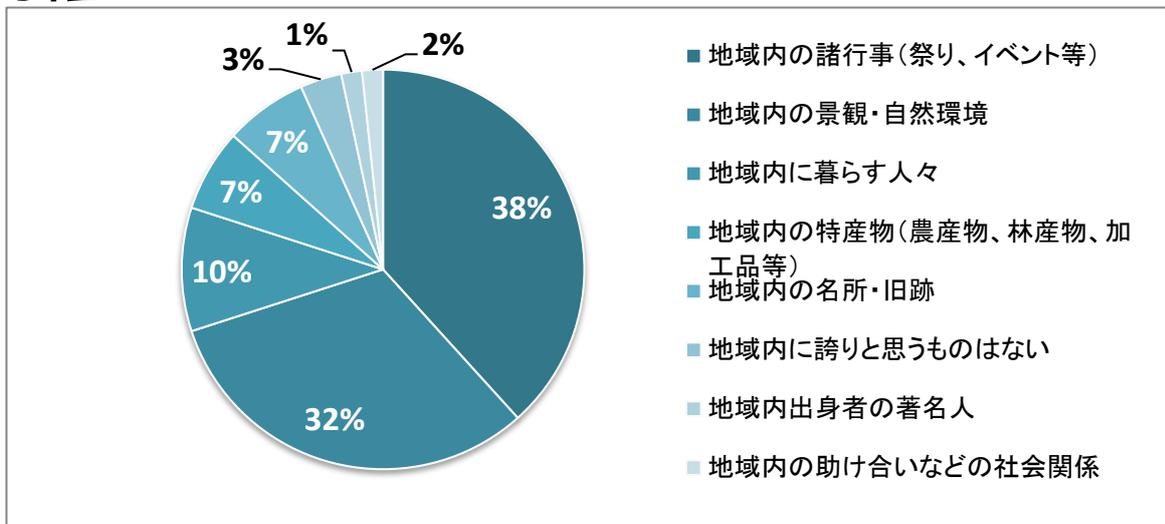
問8 地域・集落内で、あなたが誇りに思っているものは何ですか。(複数回答可)

2年生



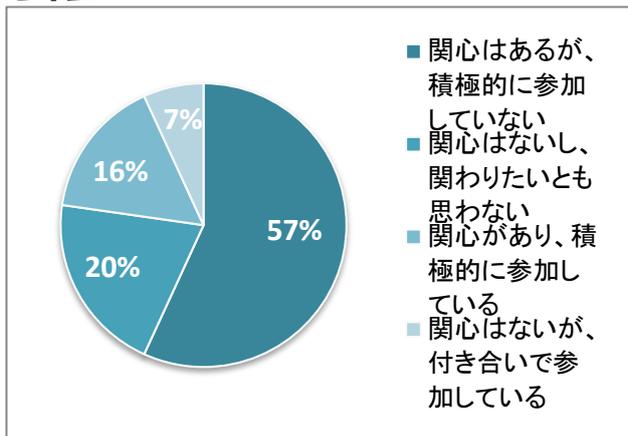
※その他(スポーツで強い人が多い、元気なところ)

3年生

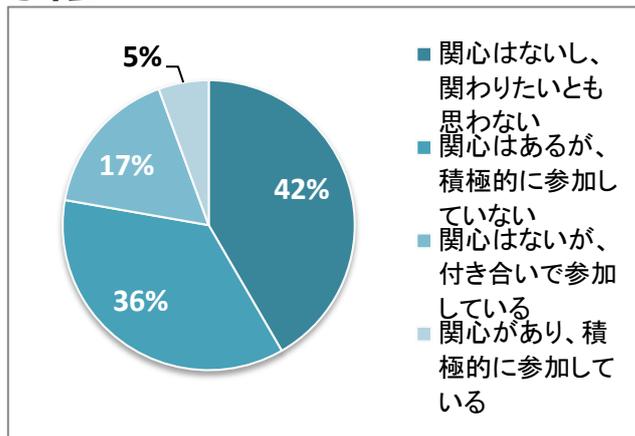


問9 あなたは、地域・集落活動に関心がありますか。

2年生

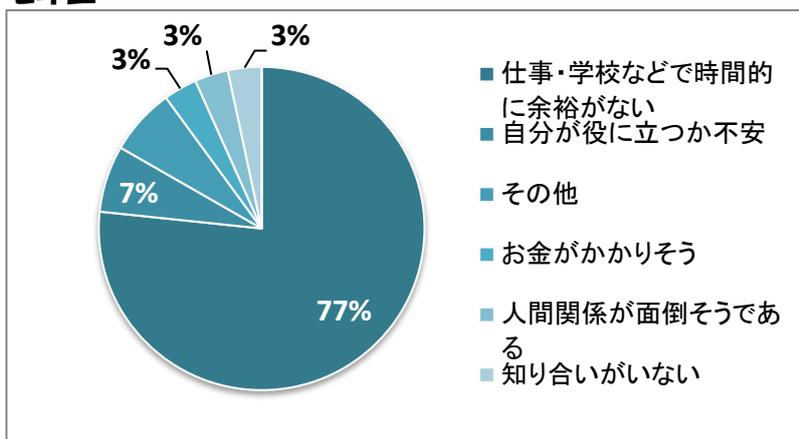


3年生



○問9で、「関心はあるが、積極的に参加していない」と答えた方の理由

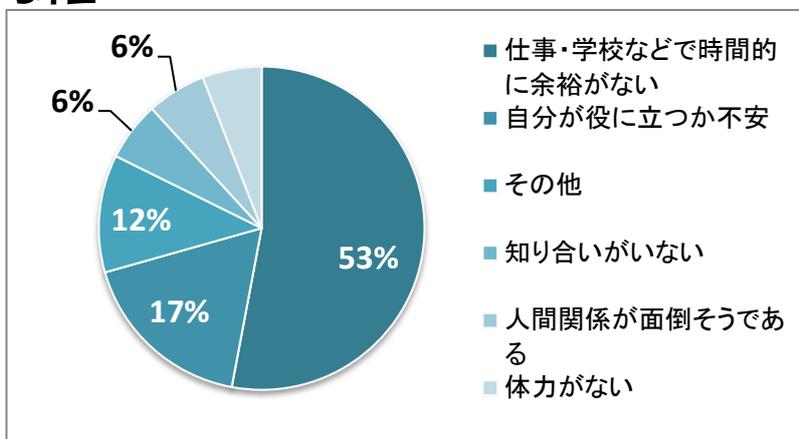
2年生



※その他の理由

- ・よく分からない
- ・これからする予定

3年生

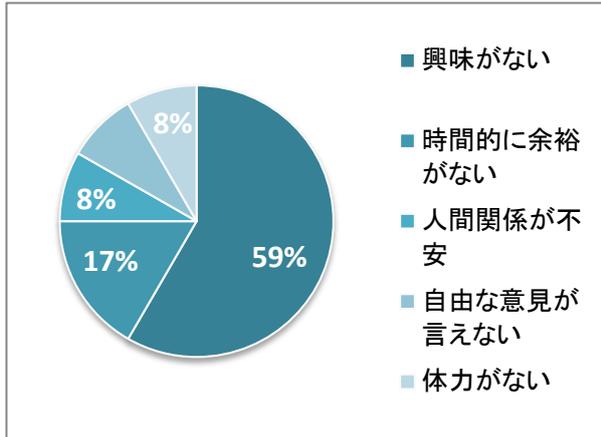


※その他の理由

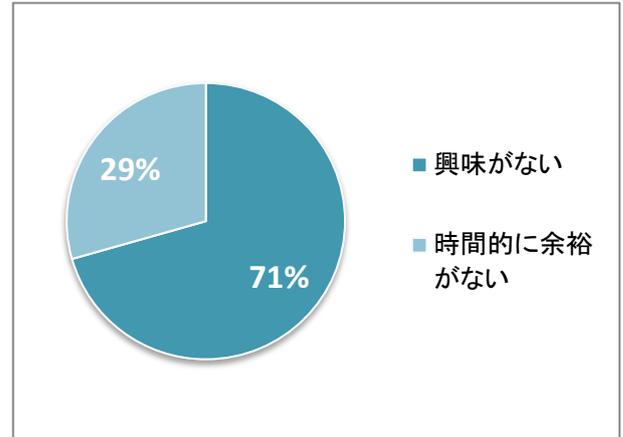
- ・一部しか興味がない
- ・大変そうだから

○問9で、「関心はないし、関わりたいとも思わない」と答えた方の理由

2年生

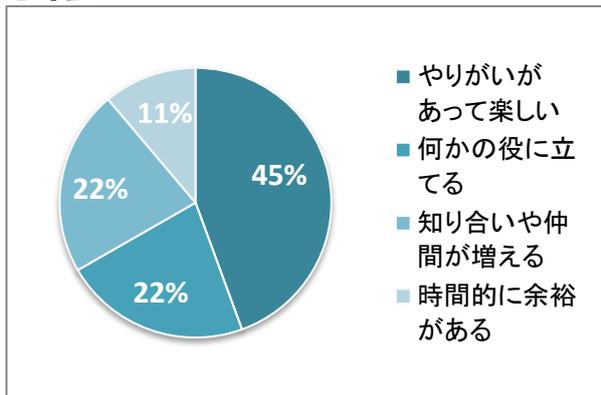


3年生

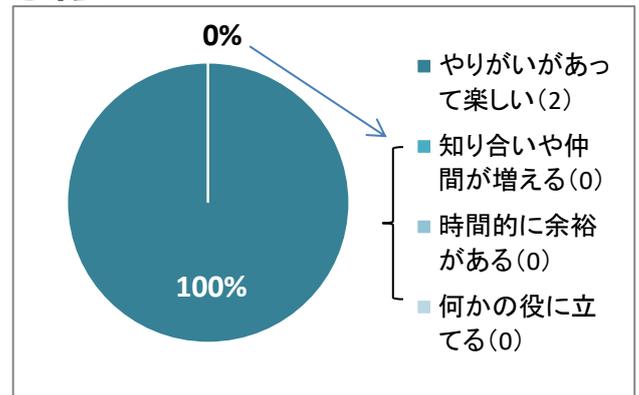


○問9で、「関心があり、積極的に参加している」と答えた方の理由

2年生

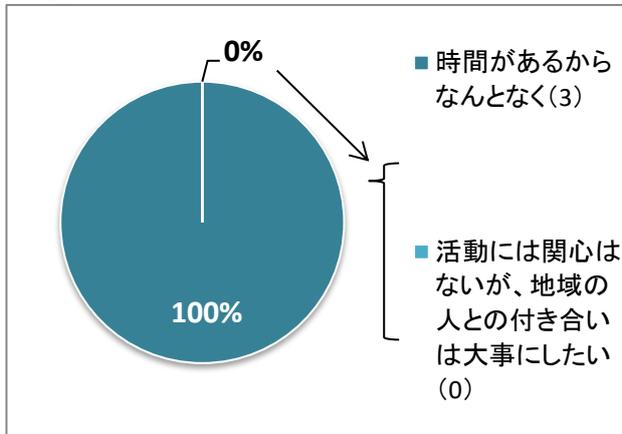


3年生

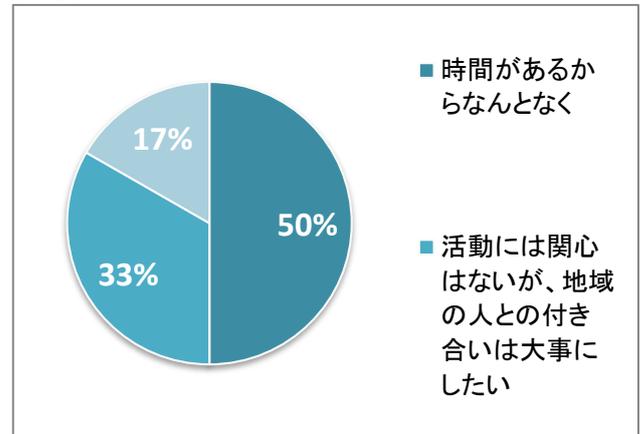


○問9で、「関心はないが、付き合いで参加している」と答えた方の理由

2年生



3年生



《自由記入》 地域・集落づくりについて、ご意見・ご提案がありましたら自由にご記入ください。

2年生

- ・地域のみんなで協力すればよいと思う。
- ・桑の葉だけでなく、桑の実でも物産品を作ったらどうか。
例) 甘くておいしいジャム→クラッカーに合いそう。
洗ってそのまま→プチッとした食感が楽しめる。
- ・スーパーを置いた方がいいと思う。
- ・このアンケートは集落の発展にいいと思う。
- ・もうちょっとみんなと仲良くできたらいいなと思う。
- ・太田や戸沢に、もっと祭りを増やしてほしい。
- ・子供も参加したいと思うようなイベントをやってほしい。

3年生

- ・ごみ集めをする。
- ・時間がなくて地域の行事に関われなくても、少しでも関わりたい。
- ・あまり分からない。

アンケートのご協力、ありがとうございました。

より良い集落づくりのために役立たせていただきたいと思います。

令和元年7月

東和地域集落支援員